ミュンヘンへの道

オリンピック対策部が発足し、候補選手も決定し、いよいよ三六年ぶりのチャンスを獲得すべく本格的なオリンピック対策にとりくむ時がきた。

強化とならんで、情報活動の重要性が叫ばれている。先日の世界選手権の時にも、この情報活動の不足が我が国に大いに不利に作用したことはいなめない事実であろう。

情報活動と一口に云うが、ハンドボールの本場から遠く離れた日本において、これを行なうことは容易なことではない。

現在の資料源は外国の、それもフランス、ドイツのスポーツ紙が唯一の存在でしかない。

誰がどのくらい点数をとり、どのチームがどこに勝ったかまでは知ることができるが、それ以上はムリである。

もっとも必要なのは、誰がどのようにして、どこからシュートしたか、誰が誰にどのようにしてパスをし、シュートさせたか、キーパーはどうだ、守備陣はどうだ。そのチームの勝ち方はという〝どのようにして〟が重要なのである。これはどうしても試合をみるか、ヴィデオもしくは映画などを手に入れる以外には方法がない。

では、どのようにして、それを行なうかが大きな問題になろう。ハンドボール界が豊かな財政・人的資源をもってさえいれば、各地に人を派遣するなどして資料を集めることができよう。しかし、これも不可能。だが何としてでも情報収集は行なわなければならない。

結局、残された手段は、各国にいるハンドボールのOBもしくは関係者の手をわずらわし、情報活動を行なわなければならないということになる。

対策部でいかにやっきとなったとしても、活動には限度があろう。まずは広くハンドボールファンの知りあいで外国に居る人々の名簿を作り、その人を信頼をして情報を集めることになろう。読者諸兄にぜひお願いしたいのは、知りあいの方で、ヨーロッパに住んでいる人があったならば、ぜひ住所その他連絡がつく方策を協会宛に教えていただきたいということである。

ハンドボール界全体の事業として、何としてでも、この情報活動は行なわなければならない。ぜひとも、ハンドボール界の総力を挙げて、これを種々の困難な条件をのりこえ、成功させなければならない。皆さんの協力を期待したい。（藤本）

時評

日本における大会のほとんどは勝ち抜き戦、いわゆるトーナメント方式によって運営され総当りは少ない。

各地の学生リーグ戦はむしろ異例だ。

リーグ戦は試合数がかさみ、大会経費がぼう大になる。

そこえ行くと勝ち抜き戦は運営者側にとっては楽である。

しかし、真の勝者――チャンピオンを決めるにはリーグ戦がいちばん理にかなっている。「公正」を尊ぶスポーツの世界ではこの方法が当然採られるべきであろう。

全日本総合選手権も来年度からその内容を大巾に変えるというが試合方式は旧態のままのようだ。

財政面を考えればしばらくはそれも仕方がないが、近い将来はやはり総当り採用に向かうと思う。

ハンドボールの本場・ヨーロッパ各国のチャンピオンシップはすべてリーグ戦である。勝ち抜き制の世界選手権も最初のラウンドはリーグ（予選リーグ）を採り、強者の選択を厳正なものにしている。

やがては決勝ラウンドもベストエイトによるリーグ戦で争われるようだと伝えられるが（本誌11頁参照）、記者に云わせれば遅すぎるくらいである。

こうした機に全日本実業団連盟が、その選手権者を男女ともリーグ戦で争う計画を明きらかにしたのは大いに注目される。

実連が全国大会で思い切った一・二部制（男子）を布いたことに異論もあるようだがこの勇断は賞していい。全日本学連も事情が許せば予選トーナメントのあと決勝リーグ制を採りたい意向と聞くが一日も早くそうなって欲しい。

女子実業団の実力が伯仲、向上の一途をたどっているのは、参加チームの僅少からやむを得ず全国大会でリーグ制を採った所産だという人がいる。〝思わぬ成果〟というべきか。2回戦制といわれる方法もある。高名な国際トーナメント〝ヨーロッパカップ〟がそうだ。一発勝負の欠点を補う方法として世界選手権の予選もこの方法だし、オリンピックの予選が行われるとすればやはりこれだろう。

関東学連が今春、4部の順位決定戦で採用、効果をあげているが大会の運営方法などただ無批判に前例を踏襲するだけではなくどしどし思い切った新しいシステムを考案すべきだ。（X）

「ハンドボール」7月号（第77号）目次

表紙写真 第2回全自衛隊選抜大会決勝。防衛大、自衛隊勝田を攻める（6月19日・駒沢）（山田真市・撮影）

初の外国学生チーム

成均館大学（韓国）が来日

7月3日から 日韓交流各地で5試合

第4回日本・韓国国際親善学生ハンドボール大会は、韓国から成均館大学を迎えて7月3日に開幕、全国4都市で5試合を行う。

この大会は昨年6年ぶりに復活、毎年交互にその代表チームを迎えあうもので過去3回何れも学生らしい若さにあふれたフェアな試合ぶりで両国ハンドボール界の親善・交流に大きな役割を果たしている。

今回は、ミュンヘンオリンピックを2年後に控えて、レベルアップを伝えられる韓国ハンドボール界の実力を知る上にも注目される大会であり、特に成均館大学は韓国球界にあっても屈指の強豪という定評があるだけにその試合ぶりは興味深い。

なお外国から学生チームが単独で来日するのは初めて。韓国チームの来日は昭和38年6月の韓国学生選抜、同12月の韓国高校選抜、去年の朝鮮大附属高についで4度目である。

李京求団長ら一行17人（役員4、選手13）は7月1日午後3時45分羽田着の大韓航空機で来日の予定。

韓国選手団名簿

団長		李 京求	(45・成均館大教授)
総務		洪 淳泰	(50・韓国協会副会長)
監督		崔 壬煥	(41・成均館大部長)
コーチ		姜 仁燮	(31・成均館大コーチ)
選手		(成均館大学)	
GK	①	李 承宰	(21. 178. 75 新聞放送学科3年)
	⑪	奇 忠植	(22. 176. 66 図書館学科4年)
FP	②	章 載奉	(20. 181. 70 経営学科2年)
	③	孫 泰烈	(19. 176. 69 体育科1年)
	④	康 忠根	(27. 179. 73 経済学科4年)
	⑤	宋 錫仁	(23. 179. 80 化学科3年)
	⑥	金 秉達	(23. 171. 65 化学科3年)
	⑦	曺 正奎	(22. 171. 64海外開発学科4年)
	⑧	安 俊鎬	(26. 171. 63 化学科3年)
	⑨	朴 炯淳	(21. 178. 75 商学科3年)
	⑩	田 相薫	(18. 182. 80 体育科1年)
	⑫	金 永年	(19. 180. 74 体育科1年)
	⑬	安 義沫	(18. 179. 70 体育科1年)

○内数字は背番号

韓国学生界の実力は、関東学生1部のAクラスだ、といわれる。

昨夏訪韓した田中全日本学連理事長、北川日体大監督らもこの点を認めており将来は互角以上の力を備えるであろうということだった。

初来日する成均館大は慶熙大、円光大などとともに韓国ハンドボール界の代表的強チームだ。

韓国球界の草始期は第二次大戦前日体で活躍した人たちが帰国して技心指導の中心となり、日本と同じような球史を刻んで来たが、近年は若い指導者が続々と輩出、特に技術面では新しいカラーを打ち出している。

もともと球技のセンスは抜群だけに、ハンドボールでもかなりユニークな展開を見せる。

そうしたなかにあってつねに上位に定着している名門・成均館大が来日することはこれまで以上に韓国全般のレベルを知るうえに見逃せない。

それというのもミュンヘン・オリンピック（一九七二年）の予選に日本が出場しなければならないようなら、当然アジア地域に〝同居〟する韓国が第一の関門になると予想されるからである。

韓国はこれまでいちども世界選手権など国際舞台に登場していないが、ミュンヘン・オリンピックをだまって見送ることはまずなかろう。

「西ドイツジュニアナショナルを招いて強化をはかる計画をもっているようだ」（日本協会・荒川理事長）というようにかなり積極的・意欲的とみたい。

昨年の主力が健在

成均館大と日本チームの交流は今回が3戦目。

最初は、昭和36年10月の第1回大会で訪韓した日体大が第2戦で顔を合せた。22―6と日体大の快勝に終ったが当時は11人制であり今日ではあまり参考になるまい。

2度目の対戦は昨夏。日体大が第一戦、最終戦で18―19、13―12と1勝1敗だった。得失点合計も31―31とまったくの互角である。

来日メンバーの大半はこの時の主力であり、特に宋錫仁、金秉達朴炯淳の得点源が健在なのは手強い。

三選手とも韓国学生界のトッププレイヤーで、昨夏は韓国学生選抜（注・日体大20―15韓国学生）の一員としても出場、3試合を通算すると金秉達、朴炯淳がそれぞれ11点、宋錫仁が9点を日体大からもぎとっている。GK奇忠植も選抜軍のメンバーで堅実なプレーを誇る。

このほか、GK李承宰、曺正奎安俊鎬らが攻守の中心、新人では孫泰烈のプレーと大型の田相薫が注目されよう。

FPの平均身長は一七七センチ

日程（全5戦）

▽7月3日午後6時
対日体大 駒沢屋内球技場

▽7月5日午後3時
対全関西学生選抜 大阪市中央体育館

▽7月7日午後4時30分
対全東北学生選抜 宮城スポーツセンター

▽7月8日午後6時
対東海学生選抜 名古屋市立体育館

▽7月9日午後6時
対全関東学生選抜 駒沢屋内球技場

体重は七一キロ。

なお、総務役員の洪淳泰氏は韓国協会の副会長をつとめ、韓国球界の推進者の一人。日体のHBとして昭和13年の第2回全日本選手権に優勝、昭和38年に韓国学生選抜の監督で来日されている。コーチの姜仁燮氏（成均館大OB）は38年の韓国学生選抜軍の主将。同軍の主力として8試合で33点をマークした華れいな攻撃ぶりを覚えていられる読者も多いだろう。

得意の空間プレー活用か

韓国のプレーは空間を利用した多彩な攻撃活動が特色だ。

この傾向は、昨年来日した朝鮮大附属高（中大附属高に11—7、下関中央工に8—8）の策戦にもうかがわれるが、新ルールの適用によってさらに効果を高めるのではなかろうか。

日本でも日体大が「スカイ・プレー」と名付けて有力な戦法にするなどこの面での〝技術開発〟は各チームとも盛んになっているが韓国選手の秀れたジャンプ力による配球—シュートへのコンビネーションは独得のものだ。

成均館大がこのプレーを活用するようならば、日本チームにとっても得るところが大きいと思う。

それともう一つ、彼らの勝負への執着心がすばらしい。韓国チームが来日するたびにこのことは云われているが、特に守りの面での当りの強さと粘りは、日本チームも悩されるだろう。

ところで過去3回の成績は

▽第1回（昭和36年10月）

日体大遠征、6戦全勝（いずれも11人制）

▽第2回（38年6月）

韓国学生選抜軍来日、日本側4勝1敗1分（このほか日本側社会人が2試合を行い2敗）

▽第3回（44年7月）

日体大遠征、4勝2敗

となっている。

第1回は6試合ともフィールド（11人制）での対戦で日体大のスピードが韓国勢を完全に上廻ったが、7人制移行後は実力差がかなりせばめられて来ている。第2回の時は日体大が25—25で引き分け広島商大が1敗、そして昨年は6試合とも接戦である。

成均館大は遠征の不利と第1戦以外はすべて相手が各地区の精鋭・選抜だけに苦しいが、日本側も予断は許されない。

日本側の陣容も決まる

全日本学連は韓国代表成均館大と対戦する各地選抜軍のメンバーを次のとおり発表した。

【東北学生選抜】▽監督 新野孝男（東北学院大出）▽コーチ 斉藤節郎（東北学院大出）▽GK佐藤（仙台大）、小野寺（東北学院大）▽FP石田、森、山本、岩槻（以上仙台大）、梅原、堀合（以上東北大）、後藤、麦倉（以上福島大）、泉沢（東北学院大）白幡（宮城教大）、照井（東北工大）

【関東学生選抜】▽監督 滝口三郎（明大出）▽コーチ 江名英彦（立大出）▽GK望月（中大）、馬渕（立大）▽FP植田、花輪、佐々木、佐藤要（以上中大）、新実、大江、明石（以上芝浦工大）、氷海、松原（以上日体大）、荒井（法大）、有永（立大）

【東海学生選抜】▽監督 宇津野年一（日体大出）▽コーチ 横井保信（中京大出）▽GK平田（中京大）、竹内（名城大）▽FP勝田、畑野、高橋、川口、飼沼、後藤（以上名城大）、足立、吉田、高良夏目、成田（以上中京大）、河合小山、小野（以上愛知教大）石川、山口（以上名古屋大）、宮地（南山大）、工藤（岐阜大）

【関西学生選抜】▽監督 中江義雄（同志社大出）▽コーチ 飯端寿昭（関学出）、山崎武（日体大出）▽GK入江（関大）、岩田（同大）▽FP中井、松井、中野（以上同大）、脇田、清水（以上大阪経大）、藤井（大体大）、土田（桃山大）、小林（大阪外大）、宮松（関大）、川上（関学）

来日韓国選手団


GK 奇 忠植


FP 亩 正奎


李 京求団長


FP 章 載奉

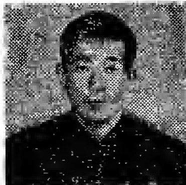

FP 安 俊鎬


洪 淳泰役員


FP 孫 泰烈


FP 朴 炯淳


崔 壬煥監督


FP 康 忠根


FP 田 相薫


姜 仁燮コーチ


FP 宋 錫仁


FP 金 永年


GK 李 承宰


FP 金 秉達


FP 安 義洙



日本の活躍を高く評価

世界選手権回顧……IHF広報から

国際ハンドボール連盟(IHF)は広報83号(45年4月号)で第7回世界男子7人制選手権(2月26日〜3月8日・フランス)の回顧記事を特集した。その概要をお伝えしよう。(文責・編集部)

【カット写真は表彰式。中央で優勝杯を持つのがルーマニア】

ヨーロッパ各国の強敵に成長

日本がこの大会に参加するのは4度目のことだが、今回も彼らは世界選手種の声価を高めるに充分な活躍を示し、大会全般のレベルアップに大きく貢献した。

特に、日本の展開した敏しようかつ迅速な近代的なハンドボールはヨーロッパ流のハンドボールに新しい調味料をそそぎこむ役割を果したといってもよいだろう。

日本のスマートなうえにスピード豊かなプレーは観客を魅了し、ファンは日本の出場する試合を楽しみにしていたようだ。

日本にとって「偉大な成功」といえるのは予選リーグ2日目に行われたユーゴ戦を17—17で引き分けたことである。一部の者はこの結果をセンセーションな話題としたが、それは当らない。

なぜなら日本は昨年の夏、ルーマニアとユーゴで一ケ月以上も今大会への強化を企って周到な準備をしていたからである。

日本はミュンヘン・オリンピックにおいてヨーロッパチームのもっとも油断できない相手となろう

全般の結論を先に云うならば、優勝したルーマニアとユーゴ、東ドイツ、西ドイツ、ソビエト、デンマーク、チェコらはまったく同じ位の強さであり明日のチャンピオンとなることが可能だ。そして日本が近い将来すぐそれらの国の一つに加るのもまた疑いない。

ルーマニア、決勝で苦戦

さて、優勝したルーマニアだが彼ら自身は試合終了の寸前まで試合に敗れ、タイトルを得られないのではないかという不安につつまれていたようだ。

それだけに優勝が決まったと同時にルーマニアの選手が見せた歓喜のしぐさは大観衆にいっそう決勝戦を劇的なものとして印象づけたであろう。

ルーマニアは東ドイツのためにまったく苦戦した。

これは東ドイツの策戦手腕を讃えるべきかも知れない。

例えばエースのグルイアは東ドイツディフェンスの絶え間ないマークにあって行動を制約され、ガツも巧妙に封じこまれた。ルーマニアは予選から準決勝まですべての計画を順調に進めながら、東ドイツの強力な反撃にあって一度ならず脅かされ、前述のような不安感を強いられたのである。

優勝へ、計画的な"一敗"

ルーマニアの計画は決勝まですべて順調に運んだ——というのは西ドイツとの敗戦(注・予選リーグC組、14—15)もふくんでのことである。彼らはC組の第2位になることを望んでいたのだ。

第3日を前にたてたルーマニアの計算は「A組でスウェーデンがソビエトに少差で敗れることを期待しスウェーデンがA組の1位となること」であった。そして、スウェーデンと決勝トーナメントの1回戦で当るにはルーマニアはC組の2位、つまり西ドイツに敗れる必要があったのである。西ドイツに勝ってしまえば、もっとも恐るべき敵・東ドイツとまず対戦しなければならなかった。

この計画はスウェーデンが11—12でソビエトに敗れたことであまりにも鮮やかに実った!!

ルーマニアの幸運を祝福したい「世界チャンピオンになるためには一試合を明きらかに敗れなければならない」ことを印象づけられた。

絶讃、東ドイツの健斗

東ドイツが決勝へ進出するまでに最強国をなぎ倒したのは高く評価されるべきだ。

すなはち予選リーグA組でソビエト(13—11)、ノルウェー(10—8)、決勝トーナメントへ入って西ドイツ(18—7)、ユーゴ(17—13)と実に5ケ国を数える。

これらの国に勝ったために東ドイ

ツの選手は肉体的、精神的能力の限界に挑む試錬を強いられた。西ドイツとの試合で8—12と劣勢に立ちながら追いあげ延長で勝った気力。ユーゴとのすばらしい準決勝。東ドイツの活躍をどれだけ称讃しても足りないだろう。

東ドイツは第5回、第6回大会で大いに期待されながらあまりにも早く姿を消した。しかし専門家たちは、その当時から東ドイツに注目しつづけていたのである。

2敗1分で3位のユーゴ

初の3位を獲得したユーゴ。しかし日本の善戦にあったのをはじめその道はけわしく、3勝1分2敗でありながら銅メダルを掌中にしたのである。

6試合してわずか1敗のソビエトが9位に留り、オリンピック自動的出場権まで失ってしまったのと比べれば世界選手種の競技方式そのものに反省が必要であろう。

デンマークは特級の力をもちながら3位決定戦でユーゴに敗れて4位に終った。彼らのために弁護すれば、世界選手権を目指して入念な準備をしていたにもかかわらず、本大会ではあまりにも肉体的精神的に疲れきっていたのだ。

その最初のキザシは準決勝のルーマニア戦（12—18）でみられたが『肉体的な疲れ、精神的な固さ』は国内の一部でかなり厳しく批判されているという。

勝利の女神、西ドイツ見放す

優勝国ルーマニアに土をつけた唯一のチーム・西ドイツ。

ルーマニアの思惑同よう西ドイツもこの試合にルブキング、ムンク、シュミットを休ませ〃敗戦を狙った〃。

勝利を得たあと「三人の主力を休ませ、若手でルーマニアに勝ったのは本当に嬉しい」と語ったヴィックコーチの心中は複雑であったろう。東ドイツと決勝トーナメントの序盤で顔を合はせることはどうしてもさけなければならなかったのだが、A組の順位を予想するのはどの時点でもまったく難しかった。

ルーマニアのネデフコーチは前述のように「スウェーデンがソビエトに惜敗する」ことに賭け、成功したのだ。

西ドイツは予選リーグで全勝する好調も結局はかなりの疲労をよんで5位に留った。

波乱のA組、ソビエト失格

こう書いていくと今大会の一つの焦点に予選リーグA組の動向があったことに気付かれよう。

この組の1位にスウェーデンを予想できたのはスウェーデン協会々長であり、IHF技術委員のワッドマルク氏一人だけだろう。

A組の各試合はいずれも激烈を極めた。

それが他の組の、特に上位進出国を狙う国にまで影響を及ぼしたわけだが、波乱はさらにソビエトの失格（決勝トーナメントからの脱落）に広がった。ソビエトは今大会もっとも不運なチームといえよう。

最終日、東ドイツがノルウェーに2点差の勝利を得たことで、ソビエトはスウェーデンから「3点差以上の勝利」が必要となった。そして勝ったものの、東ドイツには2点及ばず涙をのんだ。それは奇しくも対東ドイツ戦で失った点差（11—13）と同じだった。

ソビエトの東ドイツ戦における敗北はある程度予想もできたが、決定的なモノではなかった。ましてやA組から勝ちあがれないなどと誰が考えただろうか。

彼らはこのA組での不運に報復するかのように9位決定リーグでは日本以下をたたきつぶした。

ノルウェーが9位リーグにも残れず帰国しなければならなかったのを多くのファンは気の毒がった。

彼らは全試合を失いながら実によく戦った。そのファイティングスピリットは激賞してよいと思う。

チェコ、新旧の入替え遅し

前回の覇者・チェコは決勝トーナメントに残った8ケ国の最後の地位におちるところだった。

予選リーグB組ではともかく3戦全勝したが、準々決勝の対デンマークに不運な敗北（16—18）をきっしたのが転落の序曲となった。

若手選手の編入があまりにも遅かったのが敗因だろう。これまでチェコの主力となっていたベテランたちはこの大会で姿を消すことになるだろう。B・ケーニッヒコーチも退任するという話だ。

一九七二年のオリンピックにはおそらく若手を揃えてチェコは登場してくるだろう。ケーニッヒ氏の後継者たちは第6回大会で世界タイトルを獲得した時以上の努力と研究をしなければならないと思う。老いたといえばハンガリーの選手にもそれはあてはまる。

彼らは予選リーグでは58得点、37失点と好調に3勝、いぜん一流の力があることを示したが、その勢いを最後まで保ちつづけることができなかった。それはユーゴ戦にのぞかせた〃疲れ〃でもわかろう。

幸いなことにベテラン選手から新進へのバトンタッチはどうにかできたようだ。オリンピックには今大会で若手と呼ばれた人たちが主軸となる。8位というランクよりももっと上位進出が期待されたハンガリーだが、ベテランの力によってミュンヘンへの切符を手に入れ、それを後進へ提供できたのだから今回の結果をいちがいに〃悪い〃と批判できないかもしれない。地元フランスが9位リーグに残ったことは主催者の夢の実現であり喜ぶべき出来事といえる。結果的に12位だったが予選リーグ対西ドイツ（12—15）、対ルーマニア（9—12）における善戦は光る内容だ。

アイスランドは予選リーグD組で対ハンガリー、対デンマークにあまりエネルギーを使わずポーランド戦に全力を注ぐ策戦がまんまと成功、ポーランドは3日目で帰国という思いもかけぬ結果に追いやられた。

アメリカは明きらかに国際経験が不足していた。しかし日本との一戦はかなり敏速でよい試合ぶりを示した。

スイスは西ドイツ戦の終盤近く史上最大のセンセーションを巻きおこすのではないかと大騒ぎをさせたが惜しくもそれは成らなかった。前半3—7とリードされたスイスの後半の反撃は鋭く、後半25分には10—11としたが及ばなかった。ところで大会は10万人以上の観衆がつめかけ、25都市転戦という思い切った日程はハンドボールのすばらしい宣伝となった。

閉会とともにパリの空に打ちあげられた花火は、同時に世界のハンドボール界の輝やかしい前途へのスタートを告げる合図でもあった——。

2年間にわたる強化日程発表

日本協会オリンピック対策部ではこのほど一九七二年八月のミュンヘン・オリンピックを目指す男子の頂点強化対策スケジュールを別表のように決めた。

5月の月例常務理事会で村田対策部長から提案され承認したもので斯界が2年間にわたる長期強化構想を発表するのは初めてのことである。

オリンピック対策　来年度積極的な国際交流

ミュンヘン・オリンピックまであと2年1ケ月。

発表された長期計画で注目されるのは、今年度の強化をすべて国内で行い、来年度になって積極的な国際交流に転じようとしていることだ。

日本協会では当初、今秋にも国際試合を企画したが、ヨーロッパ各国が世界選手権後とあって経済的な事情から日本遠征が難しいとしたため断念。「ヨーロッパとの交流を絶やすのはマイナス」とする懸念もあったが、今春の世界選手権代表が主力として残っている候補選手を改めて仕上げるのにはかえってチャンスということでこのようなプランができあがった。

今年度内の強化合宿が3回にとどめられたのは、〝ナショナル〟としての国際試合予定がなく、単なる合同練習を繰り返すよりも所属チームにあって技術をみがくこと、各選手が軸となるチーム同士が対戦するほうが好結果を生むのではないかという判断によるものだろう。なお、好評の「国内サーキット」（全日本男子国内転戦）は今後も機をみて行われる。

来年度の国際交流は9月のスウェーデンナショナルの来日が八分どおり決まったようだ。同国は今春の世界選手権で第6位、若手の有力選手で固められ、村田対策部長は「ミュンヘンの金メダル候補」だという。

47年新春のヨーロッパ遠征は白紙の段階だが世界選手権の上位国を一巡するなど意欲的な構想が盛られるとみたい。

ヨーロッパ各国は、今春の日本の活躍を注目しており「日本が遠征してくるなら何時でも手合せしたい」と受け入れの態勢は整えられているようだ。5月に来日した国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）のペライ技術委員（西ドイツ）も「日本の試合ならばアレンジしがいがある」と日本協会首脳陣に協力を約束していったという。

候補選手、今夏に追加

今回の計画ではオリンピックイヤーとなる昭和47年春にも外国チームの来日を予定している。すでに去年からデンマーク（世界第4位）が名乗りをあげているが今後の交渉待ちである。

村田対策部長の考えではこの国際試合のあとに晴れのオリンピック代表選手を選ぼうとするつもりのようだ（注・役員の決定は未協議）

選手については、すでに本紙でも伝えられたが、現在の第一次候補18人を〝スタート〟にして47年までに少なくとも四～五回の入れ替え（つまり第5次候補選手まで）を行うという基本方針が発表されている。

候補選手の厳選は若手選手にも大きな希望が与えられるわけで、「容しゃのない入替えを行うべきだ」（西副会長）という声は強い。さしあたり、今夏8月全日本総合の終了後、GK1、FP1の第一次候補選手の追加を行うことが明らかになっている。

オリンピック強化対策日程

昭和45年度	9月16日～20日	第1回強化合宿
	12月21日～25日	第2回強化合宿
	46年3月21日～25日	第3回強化合宿
		（いずれも東京）
昭和46年度（予定）	5月	第1回強化合宿
	7月	第2回強化合宿
	9月	第3回強化合宿
	9月7日～28日	外国チーム招待
	11月	第4回強化合宿
	12月	第5回強化合宿
	47年1月～2月	ヨーロッパ遠征
	3月	第6回強化合宿
昭和47年度（予定）	4月	外国チーム招待
	5月	オリンピック選手決定
	6月	強化練習
	7月	強化練習
	8月6日～9月10日	ミュンヘン・オリンピック

70年度の話題を探る（下）

教員界，クラブ界(男子)の展望

教員界

斯界における教員界の占める位置は大きい。日体大、東京教大などが多くの名選手、好選手を輩出したことも一因だろう。各チームの主力が〃職場〃を一にして練習量が豊かならば全日本の最上位進出も狙える実力を備えている。

昨年、全日本教職員連盟が発足「ハンドボールを通じての教育」に意欲的な姿勢を示していることも高く評価してよい。教職員ハンドボール界の行く道はむしろその方向であり、多大な期待をかけたい。この点については稿を改める機会もあると思うので、ここでは教職員チームの今年の実力をひとわたり視くこととしたい。

昨年、全日本教職員優勝の東京教員クはGK綿貫、大西、藤原、山口、渡辺、高野らの主力が健在のところへ浅野（東京教大出）、手島（前・千葉教員）が加入、攻撃力に厚味が増した。

東京と実力伯仲なのが大阪イーグルスと埼玉教員、岩手教員。

イーグルスは福井、樫塚、青木北岡、東、松尾、GK島崎、埼玉は北井、高田、結城、河住、GK高橋と主力に変動はないが、岩手は高田、増田、熊沢らに谷藤（日体大出）藤沢（福島大出）を加えたのが大きい。

4者を追うのは和歌山教員、スワロー兵庫であろう。和歌山は塩崎(日体大出)、鈴木(中京大出)と学生界の代表的テクニシャンに市瀬(日体大出)を迎え充実した布陣

スワロー兵庫も井上、畑、北山幸田、梅田らに木野（日体大出）山中（芝工大出）、GK上野清(東京教大出）の新戦力をプラス。優勝を狙えるスタッフだ。上野の好守は定評がある。

国体時をピークにその主力を軸としていぜん上位の攻守を誇っているのが岐阜教員、福井教員、大分教員、長崎教員といったチームだ。

岐阜には神谷、石樽、杉本、福井には坂野、小谷内、森下、大分には中釜、長崎には大宮、藤井らの巧選手が健在。

このほか福岡教員、熊本教員の九州勢、宮城教員、千葉教員、山口県教育団、香川教員、愛知教員らが有力のようで、去年全日本教職員に初めて姿を見せた沖縄教員も意欲的な強化にはげんでいる。また、奈良興東クが相変らず熱心な活動をつづけているのは賞されよう。

なお、女子の教員チームとして名のりをあげた愛知クは〃開店休業〃状態。かわって大阪で関西日体クが今シーズン発足した。難問題、悪条件は多いだろうが頑ばって欲しい。

クラブ界

職場、学校などを異にしながらボール一つに結ばれた情熱の結晶一般クラブの動向を探るなどということ自体もはや意味がないかも知れない。

クラブ界をここまで追いこんでしまったのは日本協会の施策の拙さか、時流なのか。その両方だと思う。

日本協会では遅まきながらクラブ対策に取り組みはじめた。早ければ来年度にその全国大会開催の声が聞けそうだ。この動きを知ってカムバックを企てるクラブも二三ではないという。嬉しい話である。

クラブの運営も以前のようにはいか。なくなって来ている。学窓を去っても故郷に戻らぬ人が増えたことも一因のようだ。

例えば、過去国体優勝2回、全日本総合準優勝1回の華やかな球史を誇る桜丘会（愛知・桜台高OB）はいちちメンバーを同校OBに限らず〃超党派〃にしたことがある。

桜丘会という名の市民クラブだ。こうした傾向は年々各地で増え、それがさらに全県編成につながって来た。この点での成功はすでに全神奈川が昭和27年頃からおさめている。クラブそのものも新しい流れを受けているのだ。

クラブ大会を機に再び往時の活況に近づけるか。全国各地の有力クラブをひととおり見わたしてみよう。

北海道

名門サンダーが姿を消してから道クラブ界は低迷気味だ。函工OBと函館高出身者で固めた稜友クが目立つ程度

全日本総合にも代表チームがこのところずっと送られていないが球歴のある地区だけにぜひ立ちなおって欲しい。

東　北

国体を控えた全岩手が抜群のようだ。白亜ク盛岡商友会といったクラブが活躍した時期もあり土台はしっかりしている。上川、菅野、新里、池田

らベテランに盛岡商の若手ＯＢが主力。東北学院大ＯＢ会（宮城）の地味な活動もいい。東西の大学ＯＢチームはほとんど〝開店休業〟状態であり、学生界の単独ＯＢチームの代表的存在といってもさしつかえない。このほか下北手ク（秋田）古川工ＯＢ（宮城）、福島ＳＧク（福島・聖光学院高ＯＢ）が強そうである。

関東　大学ＯＢクラブがほとんど無活動なためどの地区も実業団がそのタイトルを一人占めにしてしまいそうだ。

その中にあって特筆されるのはＡＯＫ栃木（栃木）と塩山ク（山梨）。ＡＯＫは足利工、国学院栃木高らの若手とベテランの力を巧くミックス。今年は県内の足利球友会も久々に力をあげており激戦となろう。このほか新治ク（茨城）法工ク（神奈川）、滴水会（埼玉）前橋高ＯＢ、甘農ク（群馬）らの動きが注目される。法工クは機関紙なども発行、ユニークな運営をしている。

東京に所属するクラブはＯＢと現役学生混成の大学クラブと愛好者団体の二つに色分けられる。

前者は当然全国でもＡクラスだ特に、全盛時のＯＢをはじめとして42名をエントリーしている全芝浦工大、全日本総合3連勝を狙う全立教などの陣容は出色だが、いずれも中心選手が所属実業団とのからみで実際には出られず、チーム力はかなり低くなる。このほか日体大現役二軍ともいえる日体イーグルス、法友ク、ＬＢＣ（東大ＯＢ）などがある。

後者では若林ク、府中ク、峰山会、ＫＡＣ、早稲田クらが堅実。

一昨年からクラブ競技会が開かれるようになり都協会には26クラブが登録しているようだが、推定されるハンドボール人口から比べればまだまだ少い。慶大ＯＢの三田ク、早大ＯＢの稲門ク、明大ＯＢの駿台クといった名門が姿を消してしまっていることをみてもＯＢをなんとか連れ戻す策を立てねばなるまい。

北信越　氷見ク（富山）の存在が一きわ光る。これを追って小杉高ＯＢ主力の射水ク（富山）、県工ク（石川）、北農ク、上田ク（以上長野）ら有力高校のＯＢ連中を母体としたチームがやはり強さをのぞかせている。

東海　静岡の清商ク、清水橘ク、富士クらが健在なのは嬉しい。いずれも近県の実業団に対して激しい斗志をもやしている。実力的には今年も清商クが一歩リードしているようだが、清水橘クも藤井（明治大出）の加入などあり巻き返しを狙う。この三チームのほか清見潟クも侮れない。

名門・桜丘会を筆頭とする愛知勢は県内のクラブ対抗も盛んで相変らず熱のある活動を示しているが全国的な力となるとやはり桜丘会、名城ク、中京クといったところか。このほか鵜の森ク（三重）東杏会（愛知）など。

なお、8月24日と11月1日名古屋で全国初のブロッククラブ選手権を開く。来年全国クラブ大会が行われるようなら初代チャンピオンは東海から、と相変らずこの地区の気構えはみごとだ。

近畿　去年の長崎国体に滋賀ウルフ、京都ク、奈良クと三クラブを送りこんだ。

京都には星友会、篁会、洛東クら強チームが多く、関西学生界で活躍した選手を要にしている。

奈良クも鳥井を始め学生界の有力ＯＢが揃っている。

大阪では佐野工ク、高津ク、雪陵ク、桃蔭ク、高津ク、六陵ク、松枝クなど19クラブが登録。

佐野工クにはＧＫ寺田、喜田（中大出）など有力選手がいる。

東京と同じように大学ＯＢクラブは少なくわずかにデンタルズ（大阪歯大ＯＢ）が元気なだけ。

名門高校を母体にしているところでは寝屋川ク、三国丘ク、豊陵会などが目立つ。寝屋川クからはオリンピック候補の木野をはじめ大西北村らがエントリーされているものの全国大会にこのメンバーで出ることはまずあるまい。

兵庫では尼崎工ＯＢの尼崎ク、武庫工ＯＢの友幸クのほか鈴蘭台ク、大機工クといったところ。

全日本総合、国体を持つ和歌山は和商クが斗志を燃やしている。

昨年の国体代表滋賀ウルフは今年はその名が消えた。滋賀では八幡工ＯＢか。

中国　実業団ークラブの対峙が各県とも激しい。実力を買われているのは徳山球友会下関ク（いずれも山口）、米子ク（鳥取）らのようだが実業団を押しのけられるかどうか。中国選手権（6月・境港市）2位の田原外郎ク(山口)はベテラン吉村のほか下関中央工優勝の原動力・中川兄広井、皆本らが名を連ねている。

四国　香川の坂出常盤ク、高松ク、高知の高知ク以外活動が伝えられないのは淋しい坂出常盤クは坂出工ＯＢ、高知クは須崎工ＯＢが中心になっている。

九州　かっては福岡、熊本のクラブが激しい試合を展開、九州球界発展の力となって来たが、このところ全国レベルからちょっと遠のいてしまった感じである。代表的なクラブは西南学院大ＯＢを攻守の要にもつ福岡ク九州選手権（5月・宮崎）を握ったトヨタ勢の加る熊本ク、海上自衛官6人を含む異色の佐世保ク（長崎）などだ。沖縄では興南イーグルス、那覇高ＯＢらの活動が伝えられる。【杉山】

IHF講習会に竹野コーチを派遣

日本協会では8月2日から8日までの7日間ストックフォルムで開かれる第2回国際ハンドボール連盟（IHF）コーチシンポジュウムに、オリンピック対策部の竹野奉昭コーチ（大崎電気、日体大出、33才）を派遣することになった。

同シンポジュウムは「ミュンヘンオリンピックへの準備」と銘打たれ、各国の代表的コーチが参加する。講師も有力国の高名コーチが担当、世界で注目の各国の戦法分析や討議も行われる予定。

IHFからの連絡によると講議の主な内容は



竹野奉昭コーチ



鈴木義男氏

▽第1日「ハンドボールの技術と戦法」（J・クンスト＝ルーマニア）、「マーキング論」（W・ヴィック＝西独）

▽第2日「ハンドボール生理学の特色」ほか

▽第3日「近代ハンドボールの原理」ほか

▽第4日「6―0システム」（J・グリンバーガー＝ソビエト）、「5―1システム」（I・ドレネク＝ユーゴ）、「4―2システム」（B・ケーニッヒ＝チェコ）、「3―2―1システム」（V・ステンセル＝ユーゴ）「コンビネーション」（N・ネデフ＝ルーマニア）

▽第5日「ゴールキーパー」「新しいルールの提案」などとなっている。竹野コーチは7月中旬出発の予定。

鈴木氏（田村紡監督）も参加

また、日本協会は6月20日の月例常務理事会で、ユーゴ協会が毎年開いている「ユーゴ・ハンドボールスクール」（7月18～27日。ウマグ市）に田村紡監督・鈴木義男氏（四日市商出、35才）が自費参加することを承認した。

ユーゴ協会からの案内で、日本協会が旧選手強化対策部女子委員の中から希望者を募った結果、鈴木氏から申し出があったものだが、今後はIHF以外の団体の主催するこのような講座や講習会への参加については一般にも通知、希望者を集めて推せんすることになった。鈴木氏はユーゴのスクールに出席後、竹野コーチと合流してIHFコーチシンポジュウームにも参加の予定。

来春4月、チェコで世界学生選手権

国際学生スポーツ連盟（FISU）とチェコ協会はこのほど第4回世界学生ハンドボール選手権（男子）を来年4月3日から11日までチェコで開催すると発表した。

日本協会にも、日本ユニバシアード委員会（JUSB）を通じて招待状が送られて来たが日本協会と全日本学連では近く参加について協議する。これまで日本がこの大会に出場したのは昭和38年スウェーデンで行われた第1回大会だけである。

スウェーデン来秋の訪日を内諾

日本協会は来秋9月、スウェーデン男子ナショナルチーム（世界選手権6位）を招き国際試合の開催を企画していたが、スウェーデン協会からこのほど「遠征内諾」の連絡をうけた。滞日期間、試合数などに若干の問題が残っている。スウェーデン側は46年9月8日から2週間7試合を希望。

世界選手権の競技方式改訂か

国際ハンドボール連盟（IHF）では世界選手権の権威をいっそう高めるため、その競技法式について再検討を加える模様である。

現行の予選リーグを経てベストエイトによる決勝トーナメントという方法は最善のものではなく、特に、決勝ラウンドをトーナメントで行うことにIHF自ら疑問を投げかけたもので、IHF公報83号（45年5月号）は「最もよい方法は、ベスト・エイトによる総当り戦」としている。

この問題はIHF技術委員会で検討されるが、消息筋はアイスホッケーなどが世界選手権に採用している「Aグループ」「Bグループ」制が有力とみている。

このシステムは、世界各国を実力別にいくつかのグループに分けてしまい、それぞれリーグ戦を行うもので最上位グループ（Aグループ）の勝者がチャンピオンになる。早ければ男子の場合、一九七三年（昭48）に予定される第8回世界選手権から新しい方法でワールド・タイトルが争われることになろう。その場合、各グループはそれぞれ開催地を別にすることも考えられる。

なお、ミュンヘン・オリンピック（一九七二年八月、男子のみ）は16ケ国を4ケ国づつ4組に分けてリーグを行い各組上位2ケ国が再び4ケ国づつ2組のリーグを組み、そのあとでそれぞれの組の同位者同士が1～8位までの順位決定戦を争うことに内定している。

全日本大会審判員研修会報告

安藤純光
（日本協会審判部長）

昭和45年度全日本大会審判員研修会は、5月24日・25日の2日間にわたってオリンピック記念青少年総合センターと駒沢運動公園第2球技場で開催された。本年は昨年にひきつづき競技規則の一部が改正され、改正点を含めた競技規則全般にわたって解釈の統一を行なった。以下本研修会について順を追って報告する。

◎開会式 24日（日）第一日

9時より第3研修室で開会式を行なった。

・田村会長あいさつ（要旨）

私はこの度世界選手権大会に同道する機会を得て、レフェリーが競技において非常に重要な役割を演ずるということを身をもって体験して来た。

彼らは常に公正であり、公正であることを誇りとしてレフェリーをつとめている。ヨーロッパではレフェリーは完全に独立しており監督であったり、コーチであったりする人がレフェリーではない。日本ではチームのコーチや監督である人が立場をかえてレフェリーをしているのが現状である。これをきりはなして独立させるということは現在では困難であるが将来は、レフェリーを独立させるべきであると考える。

レフェリーの審判技術によって勝つべきチームが負けることがある。この度の遠征中にもイスラエルで当然勝つべきゲームが引きわけになった。このときのレフェリーの技術は拙劣なもので、会場をうめた観衆も一様にレフェリーに対する抗議の態度を示していた。レフェリーは常にフェアーでなければならないことは云うまでもないことである。日本のレフェリーを世界のどこに出してもはずかしくないレフェリーにしていかなければならない。そのためにはレフェリーの技術についてのみならずレフェリーとしての人格についても研修し、生活においてもレフェリーとして、スポーツマンとしての人格を形成されるように期待する。

折かく忙しいところを参集いただいたのであるから充分に研修されて日本のハンドボール伸展のために努力していただきたいと思う。

・荒川理事長あいさつ（要旨）

今日協会がかかえている問題は山積している。なかでも72年のミュンヘン・オリンピック、中学校の指導要領の改正、国体の年令別などの大きな問題がある。

その中にあって今回の研修会が開かれることは意義深く、またよろこばしいことであり、日本ハンドボール界発展の基礎になることを期待したい。いうまでもなく規則は守られなければならないものであるが、この規則を如何に解釈し実際にレフェリーにあたるかということが大きな問題である。本研修会は、この解釈の統一をはかるためのものである。短い期間ではあるが、充分に研修されることをお願いする。

・オリエンテーション

日程の変更および研修会全日程の内容などについて説明。

◎分科会 10時～12時

4分科会にわかれて「昭和45年度競技規則の改正点について」「競技規則全般と審判技術について」という二つの共通テーマで討議が行なわれた。

分科会座長および書記

第1分科会 山田仁止、金原 至
第2分科会 清水 正、柳井文治
第3分科会 稲石三二、山田 進
第4分科会 越智武、松田徳之助

◎講演 13時～15時

競技規則の改正によって第3条の2〔原注〕として次の文章が追加された。

(1)レフェリーは負傷者が重傷であると判断したらただちに競技を中断させる

(2)レフェリーは負傷者ができたらすぐ医者かチームの責任者を呼ぶその前には誰れも競技場に入れてはいけない。

(3)レフェリーは負傷したプレイヤーをみて軽度であると判断したときは、そのときの一連のプレーが終るのをまち中断させる。

(4)レフェリーは負傷者が「お芝居をした」と判断したときは、反スポーツマン的態度として罰する（警告、退場）

これによってレフェリーは競技中に事故が起った場合には、それがどの程度のものであるかを判断することが必要となった。

このような必要性から東京大学教授黒田善雄氏をわずらわして、「スポーツにおける傷害について」と題して講演をお願いした。

◉**全体会議**　15時～18時

議長団、入江暢一、嶋田新太郎、山田計

各分科会座長より分科会における討議の結果を報告し、次の点について研究討議および確認が行なわれた。

▽3の2〔原注〕

(2)………医者かチームの責任者を呼ぶ。その前には誰れも競技場に入れてはいけない。

※負傷者が出た場合には医者かチームの責任者を呼び、その他の者が競技場内に入らないように指示しなければならない。負傷者の搬出の場合でもレフェリーの指示によらなければならない。入ったということで罰する必要はない（競技が中断されている場合）が、入れないように注意しなければならない。

▽6の8（注）相手に対して足をあげて防禦してはならない（警告）

※足をあげて防禦することは相手のプレイヤーに対して危険であるということで禁止されたのであるボールに対して足をあげる動作については、ボールにふれた場合には、ボールを足で操作したものとして反則とし、ボールをふれなかった場合でも「警告」を与える。

▽7の3〔原注〕競技の運行に影響をおよぼさないゴールエリア内のプレイヤーは「死んだ」ものとしてあつかわれる。

※ゴールエリアへとびこんでエリアに落ちたプレイヤーは、その時点で「死んだ」ものとしてあつかう

▽7の3（注）「悪い動作」①ゴールポストの巾（正面）で行なつた場合。

※このプレイのできる範囲は、ゴールラインから3Mの地点よりゴールライン側（外側）である。

▽10の2（注）の室内の競技場の上の施設にボールが当って落下した際にプレイヤーにふれたときの処置について

※ボールは施設に当ったときにデッドになるが、その後の処置はボールの落ちたところで判定するのである。落下する際にプレイヤーの立っている位置によって判定する。

▽13の2〔原注〕および（注）

フリースローの際の3Mの距離およびボールを下におく動作に対する処置

※フリースローとくにゴール前のフリースローの場合に3Mの距離を厳重に守らなければならない。このためにはレフェリーもポイントを明確に示すことも必要である

ポイントに立ってからボールをドリブルしたり、下におく動作に対しては警告する。フリースローはスローつまり投げなければならない。ボールをころがした場合にはスローが終ったものと判定する

残り時間が少なくなったときのゴール前でのフリースローで、何度も不正配置で競技遅延をさせる意図があるときは、レフェリーはレフェリータイムをとって正しい位置につかせ、残り時間を有効に使わせるように処置する。

以上が全体会議における競技規則についての討議の主な内容である。この他に次の点についても確認が行なわれた。

▽ボールの空気圧について、

※ボールの空気圧の基準が不明確である。研究中であるが結論を得るまでは、その競技を担当する2人のレフェリーがボールの空気圧について判断する。

▽没収試合について、

※リーグ戦の場合の没収試合をどうあつかうか（順位決定をする場合）については、まだ結論を得ていないが、次年度までに研究し結論を得るように努力する。

▽レフェリーの立場について

※レフェリーとプレイヤーは兼ねることはできない（同一大会において）。各種大会においてやむを得ない事情のあるときには、県単位までの監督を兼ねることは認められるが、ブロック大会以上ではレフェリーと監督を兼ねることはできない。

◎**モデルチームによる実技研修**　19時～21時

体育館において日体大学生にモデルプレイを演じてもらい、山田計氏の解説と指導で、7の3その他の問題点について研修と確認を行なった。

◎**実技研修**　25日（月）第2日9時～17時

駒沢第2球技場において関東学生新人戦のレフェリーおよび記録タイムキーパーを各分科会ごとに競技場を担当し、実技研修を行なった。試合数が少なかったので参加者全員が笛を吹くことができなかったが、前日の全体会議で結論を得た点などの理解は充分になされた。

16時30分より閉会式を行ない17時に解散、全日程を無事に終了することができた。

〔総括〕激動の70年でもあり、勤務をはなれることがむづかしいということから例年の日程を一日短縮して実施した。このために日程がぎっしりつまっていて、きゅうくつな研修会であった。今回は黒田教授の講演、モデルチームによる研修と新らしい内容をもりこんで、参加者全員の熱心な参加ぶりとあいまって、一日の短縮分は充分に補うことができた。

最後に本研修会に参加された各位の熱意と協力に深く感謝し、さらに審判技術の向上と研究にはげまるように祈る。また協力いただいた関東学連の役員および学生諸兄に対し誌上をかりて感謝する

防衛大、勝田（前回優勝）を破り初優勝

第2回全自衛隊選抜大会開く

第2回全自衛隊大会は、6月19日午後3時から東京・駒沢屋内球技場に8チームが参加して開かれた。有力チームをかかえた海上勢が勤務の関係で欠場したのは淋しかったが、レベルアップをうらづけるにふさわしい熱戦が連続、活気のある大会に終始した。

決勝は、特別参加の防衛大学校（神奈川）と2連勝を狙う勝田施設学校（陸上・茨城）が対戦、チームプレーに優る防衛大が前半のリードを活かして快勝、初優勝を遂げた。

▽1回戦（＝準々決勝）

勝田施設学校（陸・茨城）18（6－1、12－1）2 百里基地（航・茨城）

宇都宮部隊（陸・栃木）10（3－4、7－4）8 久里浜部隊（陸・神奈川）

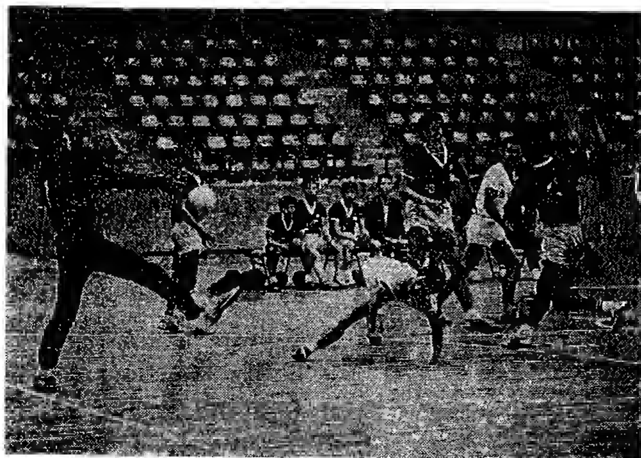
防衛大（神奈川）12（5－3、7－0）3 富士学校（陸・静岡）

第一施設団（陸・東京）12（4－5、8－4）9 仙台駐とん地（陸・宮城）

○……宇都宮×久里浜戦は互角の力で接戦となった。久里浜は奥井の好技などで1点差をつけて前半を終えたが、宇都宮は後半7分佐々木でタイ、8分林のゲットで5－4と逆転した。その後は一進一退となったが宇都宮は終了まぎわ2点をあげて制勝した。

第一×仙台ももつれた。仙台は立ちあがりいきなり4点をあげたがその後はパタリと得点が止んだ。

試合巧者を揃えた第一はその低調をうまくついて、しだいに劣勢をばん回、1点差に追いあげ後半4分5－5とした。さらに激しい攻撃で試合の主導権を奪いかえし立ち直ろうとする仙台を押し切った。



（写真）防大—自衛隊勝田施設学校（白）の決勝戦

勝田×百里は、百里が幸先よく1点をとったが、勝田は新山を軸に6点を連取してあっさり逆転、後半も一気に10点をつみあげて大勝した。防衛大×富士は前半こそせりあったが後半は防大の鋭い攻撃が富士を圧倒、富士はほとんど反撃のチャンスをつかむことができないで終った。

▽コンソレーションマッチ

百里基地 11（4－2、7－4）6 仙台駐とん地

富士学校 18（7－2、11－6）8 久里浜部隊

（注）百里基地と富士学校を5位として表彰

防衛大、辛くも逃げ切る

▽準決勝

防衛大 11（5－3、6－6）9 第一施設団

【第一】得			得【防大】
吉留 0	GK		0 高倉
崎山 0	FP		0 相川
松坂 0			1 宮本
梅原 1			3 北原
池野 0			2 今井
関山 6			1 木下
室川 0			1 右近
林 0			1 荒木
竹本 1			1 福田
榊 1			1 神田
	（審・田中、佐野）		0 石本
9	（1）	7MT	11（1）

○……先手をとられた防大は速攻から3点を連取、優位を保った。第一もよく粘り後半2分5－5といちどは追いついたのだが今井を中心に動きで上廻る防大は6分すぎから再び攻撃のペースをとりもどし10分9－5とリードした。

第一は終盤に関山の活躍で2点差まで反撃したのだが惜しくもタイムアップとなった。

勝田施設学校 25（8－6、17－3）9 宇都宮部隊

【宇都】得			得【勝田】
渡辺 0	GK		0 岡島
林 0			
福井 4	FP		3 平山
柱 3			3 増田
田中 0			4 阿部
荒巻 0			7 新山
佐々木 1			0 小松
松本 0			6 日高
林 0			1 高原
岡野 0			0 押野
安部 0			0 富氷
斎藤 1	（審・岡村、勝）		1 金島
9	（2）	7MT	25（0）

○……勝田はスタートから走りまくり、多彩な攻撃展開で宇都宮ゴールを割った。
宇都宮は福井、桂が散発的に得点を返すだけで実力差があまりにもはっきりしていた。

勝田、焦りから自滅

▽決勝

防衛大 21（10－7／11－8）15 勝田施設学校

【勝田】	得		【防大】	得
岡島	0	GK	高倉	0
諸田	0	GK	湯浅	0
平山	0	FP	相川	2
増田	4	FP	宮本	2
阿部	3	FP	北原	6
新山	4	FP	今井	3
小松	0	FP	木下	5
日高	1	FP	右近	2
高原	3	FP	石村	1
押野	0	FP	辻	0
			荒木	0
			松田	0
15	（1）	7MT	（1）	21

（審・岡村・田中）

○……勝田のすべり出しは好調で1分阿部、2分増田のゲットで2－0としたが、8分3－2と逆転されると焦りを見せて攻撃のコンビがくずれ、防大はそのスキを巧みについて北原、今井、右近らがゴール、15分7－2と差をつけた。

リードされた勝田はこのあと新山を軸にもちなおし22分8－9とせまり決勝らしく白熱した。しかし防大は23分木下、24分今井がゲット、3点差をキープ。

○……スロースターといわれる勝田の反撃が期待されたが、防大は後半開始直後一気のスパートで5分まで4点を加え15－8。

勝田は5分以後3点を返して13分12－16とし、なお攻勢にあったが、14分新山が独走から絶好機をつかみながら反則（ダブル・ドリブル）をおかして逸したのは痛かった。このプレーを境に再び防大が優位を取り戻しそのまま押し切った。

○……関東学連でもまれている防大が、要所でよく走り、当りのない相手ディフェンスをゆさぶっていたのに対し、勝田は反撃を焦るがあまり無理な態勢からのシュートやポストへのこだわりで自滅した感じだった。なお、全日本総合には防大が学連所属で特別参加という資格であったため勝田が出場する。（杉山）

▽……関東学連2部（3位）の防衛大が優勝をさらったことで、そのレベルについて未だしの感を抱いた関係者もあるようだが一年前に比べるとかなり向上のあとがみられた。

前回は体力にまかせて走りまくるだけという感じが強かったが、今年はチームとしての形が整えられ「技」がプラスされて来ている。

「技」にこだわりすぎて自滅するケースも目についたが、そうなると学生リーグでもまれている防衛大が試合展開力に一日の長を見せる。

▽……前回に陸上の勝田に敗れたことでいちだんとファイトを燃やしていたという鹿尾基地（鹿児島）ら有力チームの多い海上勢が勤務の都合で大会直前になって棄権をよぎなくされたのは残念だ。予定どおり参加していればいっそうの盛りあがりを見せたであろうと惜しまれる。

向上のあと、はっきり

準優勝の勝田施設学校をはじめどのチームもハンドボール経験者は数えるほど、ここまで自衛隊球界が伸びて来たのは隊内指導者の熟意におうところが大きいのだが上位チームの主力選手の多くは国内の他の分野と比べてもそん色のない技倆の持ち主であり、大会の成果は2年目ではっきり示された。

▽……各チームにとってもこの大会が開かれているのは励みになっているようで、例えば航空を代表して参加した百里基地は今回の1勝が公式戦初勝利だという。「これで今後にまた希望がもてた」と張り切って帰途についた。各チームが最後まで勝負を捨てぬ粘りと気力を示したのもいい。

いっそうの精進で名実ともに学生界、実業団球界と肩を並べるまでに一日も早く成長してもらいたいものである。

▽……ところで、この大会は国内では珍しく晴雨にかかわらず屋外でという予定だったのだが、2日つづきの大雨のため急きょ屋内に移し、夜9時すぎまでかけて日程を消化した。来年以降は30チーム以上の参加が見込まれているという話でもあり充分な準備が必要だろう。日本協会も他の加盟団体と異質なだけに積極的なバックアップをすべきで、運営面からいえば今年の場合、危い橋を渡ったことは拒めない。（S）

広島商大など追加

全日本総合推せんチーム

日本協会では今夏の全日本総合選手権（8月18日～22日・和歌山県打田町）に出場する加盟団体推せんチームの追加として次の3チームを発表した。

桃山学院大は、北海道地区代表が今年も棄権したため、そのワクを申し合せにより全日本学連にまわしたもの。これで推せん出場する18チームが出揃った。

▽全日本学連推せん　広島商科大（広島・中四国）、桃山学院大（大阪・関西）

▽全日本実連推せん　自衛隊勝田（茨城・自衛隊代表）

注目の
中学校指導者講習会
8月16, 17日四日市市で

日本協会は全日本教職員連盟と共催で8月16、17の両日三重県四日市市で「全国中学校ハンドボール指導者講習会」を開くと発表した。

昭和47年度からの「中学校指導要領」にハンドボールは待望の復活が決まり、これに備えて正しいハンドボール知識と技術を講習するものでその成果が大いに期待されている。

山田全日本教職員連盟理事長の話　今回の中学校指導要領の全面改訂でハンドボールは球技種目として新しく加えられたのは大いに喜ばしい。この機にハンドボールの具体的な指導法、特に個人的技能集団的技能とゲーム等の指導法を研究、協議し、カリキュラムの実施にあたって指導者の資質向上を企ろうと思う。

○……要項（主要点）……○

一、主催日本協会　一、後援　文部省、三重県教育委　一、主管全日本教職員連盟　一、受講料五百円　一、申込方法　各都道府県教育委員会または各都道府県ハンドボール協会を通じて「三重県津市広明町三重県庁内、三重県教育委員会体育保健課気付　全国中学校ハンドボール指導者講習会事務局」宛申しこむこと。なお参加者数に制限があり各都道府県二～三名とし内1名は女子とする。一、申込〆切日7月20日　一、宿泊料　千八百円（一泊二食）一、参加者は改訂指導要領、筆記用具運動服装、健康保険証を携行すること

○……日　程……○

▼第1日（8月16日）、11時　開講12時　改訂要旨説明　12時30分実戦見学、審判法解説～第11回全日本教職員選手権決勝戦～　13時50分　講議「1、中学校ハンドボール部員の体力について。2、段階的指導方法について」15時30分実技Ⅰ「個人的技能について」

▼第2日（8月17日）9時　実技Ⅱ「集団的技能について」12時30分　実技Ⅲ「ゲームと審判について」

8月、ソウルで2試合
日韓高校ハンドボール

日本体協はこのほど今夏ソウルで開く第3回日韓高校スポーツ交歓競技会の日程を発表した。

それによると、同大会は8月19日から21日までソウル市でハンドボール、陸上競技など8競技が行われるがハンドボール（男子のみ）は8月19日午後1時から第1戦21日午後4時から第2戦、いずれも奨忠体育館となっている。

ハンドボールの日本代表は第21回全日本高校選手権（8月3日～8日、彦根市）の優勝校が推せんされる。役員2、選手12人の予定

〃〃〃〃強化指導部（本部推せん部）委員決まる〃〃〃〃

日本協会では6月20日の月例常務理事会で懸案の強化指導部（新設、部長・勝繁夫常務理事）のスタッフについて協議、本部、ブロック、加盟団体の3母体から20～25名で構成することを決め、本部推せんの委員として後掲の12氏を委嘱した。福本弘（芝浦工大出）、大西武三（東京教大出）の両氏のほかは前年度の選手強化対策部員をつとめていた人たちである。ブロック（全国9地域）と4加盟団体からの委員は7月中旬までに決められる。

【強化指導部本部推せん委員】福本弘、広田公三、井薫、池田鉄哉
稲石三二、北川勇喜、近藤金博
中沢重夫、大西武三、鈴木義男
高橋英次、渡辺慶寿

台湾チーム来日の意向示す

台湾協会からこのほど日本協会あて第2回台湾教師選手権で優勝した「台中県チーム」と台湾小学生大会で優勝した台北市東門小学校（男子）の両チームを今夏、日本へ遠征させたい旨連絡があった

※

日本協会では6月20日の月例常務理事会でこの問題について協議した。発足間もない台湾協会の要請でもあり、将来のアジアハンドボール界確立の礎としても同国チームとの交流については積極的に推進すべきだという意見にまとまりながらも、なお具体的に交渉を行い改めて検討することになった

なお、小学生チームの交流は、受け入れ態勢に準備が必要で短時日の間には万全を期しがたいとする意見が多く、今回は交流実現の公算はうすい。



合 織 糸 ・ 合 織 混 紡 糸



田村紡績株式会社

社 長 田 村 正 衛

四日市市東茂福町10—17
TEL 四日市 6—2156 (代表)
郵便番号 512

今年も2部制（男子）で

実業団選手権 上位12チームが争覇

全日本実連は5月10日名古屋で理事会（今年度第1回）を開き、全日本実業団選手権の運営方法などを協議した。

前回に初採用した2部制が一応の成果をおさめたことから今年の全日本実業団選手権も「上位クラス」と「下位クラス」に分けて開くことを確認、会期・会場も別個とする新しい決定を行った。

上位クラスは46年3月3日から7月まで横浜市で、下位クラスは同2月7日から10日までの4日間名古屋市を予定している。

注目されるのは上位クラスを「日本実業団リーグ」と呼称して、前回で決めた8強（大崎電気、三景、常盤工業、住友化学菊本、日進商会、新日本製鉄名古屋、宗形製作所、本田技研鈴鹿）に下位クラス（「全国実業団（男子）ハンドボールトーナメント」と呼称）で準決勝に進んだ4チームを加え計12チームによって争う点だ。

昭和35年度からの「全日本実業団選手権」はこの上位クラスに引き継がれるわけである。

女子は当分の間、2部制を布かず今年度は男子の上位クラスと同時に開くことになっている。

全国リーグ実現へ進む

【解説】実連の構想は懸案の「全国リーグ」実現へ一歩進んだものとみるムキが強い。

サッカーやバスケットボールのような日本リーグの開催は、いちじ日本協会でも検討を加えていたが、女子はともかく、男子は斯界の実力分布から推して大学チームの参加が得られなければ内容的に貧弱ということで見送られたままになっている。

しかし、全日本実連執行部の日本リーグに対する意欲は高く、男子各チームの充実が、いっそう拍車をかけることになった。全日本実業団選手権の2部制採用という慎重なスタートに始って、いよいよこの二～三年の間に「全国リーグ」が実行されそうな気配だ。

理事会では、来年の上位クラス（日本実業団リーグ）は8月下旬から10月中旬までの土曜日、祭日に各地を転戦するスケジュールをたてて行うという原案も出されたようである。

日本協会には、いまのところ日本リーグ開催の意思はまったくないと云ってよく、実連が全国リーグ実施を打ち出しても特に反対はあるまい。しかし、他競技の日本リーグをみても判るとおり、いくら実連の事業とはいえ各地を転戦するとなれば、観客動員など当然地方協会の全面的な支援が必要だ。

全日本実連――日本協会の密接な連けいがあってこそ成果をあげることができる。

若手を揃えた実連執行部が次々に打ち出す企画は、斯界全般のマンネリ化を破るものと期待する層も多いだけに、この点での打ち合せを慎重に望みたい。（S）

待望の理事陣を決定

全日本学連 組織造りようやく成る

全日本学連は5月17日東京で今年度2回目の全国代表者会議を開き、注目の新規約にのっとった新執行部の決定を行ない次のように発表、組織造りの土台ができあがった。

▽会長 西敏郎（慶大出・関東学連会長）▽理事長 田中秀夫（中大出）▽理事 橋森禎二（東北・北海道学連理事長）、滝口三郎（関東学連理事長）、若山博（北陸信越学連理事長）、藤松博（東海学連理事長）、久保義雄（関西学連理事長）、藤田信義（中国・四国学連理事長）、山崎剛（九州学連理事長）＝以上7理事は地区学連選出。安藤純光（法大出）、中沢重夫（芝浦工大出）、久田暁（早大出）、江名英彦（立大出）、宇津野年一（日体大出）、堀和義（大阪府大出）＝田中理事長と以上6理事は会長推せん。

▽日本協会派遣理事田中、久保

全日本学連はこれまでまったく組織としての体裁が整えられていず、コトが起こると各地学連の代表者を招集して協議するといった状態がつづき斯界最高の実力チームを多数擁しながらほとんど事業らしいことを行って来なかった。

一昨年、西敏郎氏の会長就任をきっかけとして全日本学生王座の廃止、全日本学生の11月移行、女子の東西対抗発足などようやく新機軸がみられるようになり、学連規約も3年がかりで全面検討、今春新規約成立にてきっけた（本誌73号28頁参照）

会長以下15名の新スタッフはいずれも学生界に情熱をもやす人ばかり、さしづめ7月の日韓交流が〝初仕事〟となるが学生委員を好リードして今後の積極的な活動展開が期待される。

★☆★☆★☆★☆★

海外トピックス

——杉　山　　茂——

グンメルスバッハ2度目の栄冠
——男子ヨーロッパ杯——

熱戦の連続でヨーロッパのファンを沸かしつづけていた第11回男子ヨーロッパカップトーナメントの決勝戦は4月26日ドルトムントに一万四千人という驚くべき大観衆を集めVfL・グンメルスバッハ（西ドイツ）とディナモ・ベルリン（東ドイツ）の史上初めて東西ドイツ代表の間で争われた。

立ちあがり互角からVfLはシユミットの活躍で着々リード。後半ディナモの反撃をGKカーターの好技で阻み快勝した。同チームの優勝は3年ぶり2度目、西ドイツ代表の制はは4度目のこと。

なお、75号所報後の準決勝残り試合VfL・グンメルスバッハ—ステアウア・ブカレスト（ルーマニア）の2回戦は15—8でVfLが勝ち、1回戦（13—16）の3点差を鮮やかに逆転した。ステアウアの連覇は惜しくも成らなかった

▽決勝

VfL・グンメルスバッハ（西独）14（8―5, 6―6）11 ディナモ・ベルリン（東独）

得	【V・f・L】		【ベルリン】	得
0	カーター	GK	フイツシヤー	0
		GK	ウエイフ	0
0	K・ブラント	FP	ジンマーマン	2
9	シュミット	FP	ツエイッラー	4
1	J・ブラント	FP	シュミット	1
2	フエルドホフ	FP	ゼンガー	2
2	コスメール	FP	ウルディヒ	1
0	ケラー	FP	ハラルト	0
0	ボルター	FP	ペッヅオルト	1
0	ブランスウィグ	FP	ヒルデブラン	0
0	ウェステーブ	FP	メイブナー	0
0	リンゲルバッハ	FP	ユルゲン	0
14	（1）	7MT	（2）	11

スパルタク・キエフ初優勝
——女子ヨーロッパカップ杯——

第10回女子ヨーロッパカップトーナメントは、準決勝で3連勝を狙うシャルジリカ・カウナス（ソビエト）が同国代表のスパルタク・キエフに接戦の末2試合とも敗れる大番狂せがあり、決勝はキエフ—SC・ライプチヒ（東ドイツ）の間に4月4日ブラティスラハで争われた。

意気あがるキエフは立ちあがり3点連取した優位を保ち前半6—3とリードしたが、第6回（一九六六）につづいて2回目の優勝を狙うライプチッヒもよく粘り、後半7—8まで追いあげ好試合となった。しかし、キエフはそのあとダメ押しの1点を加えてライプチッヒの反撃を振り切り初優勝を飾った。

ソビエト代表の優勝は3回連続5度目のこと。

▽準決勝（2回戦制）

SC・ライプチヒ（東独）①19―9 ②16―13 HG・コペンハーゲン（デンマーク）

スパルタク・キエフ（ソ連）①8―7 ②12―10 シャルジリカ・カウナス（ソ連）

▽決勝

スパルタク・キエフ 9（6―3, 3―4）7 SC・ライプチヒ

得	【キ エ フ】		【ライプチヒ】	得
0	シエルスティヤク	GK	ゾーベル	0
4	ツルスチーナ	FP	クゼラッケ	3
0	ロスビーノ	FP	ブラウン	2
2	トカチェーワ	FP	ワグナー	1
1	ボブルース	FP	スタールケ	0
0	マルスチューバ	FP	ポリット	0
1	サチャローワ	FP	ジンマーマン	1
1	スウェスチエンコ	FP	ヘルビグ	0
9	（2）	7MT	（3）	7

アイスランドが優勝
——北欧5ケ国対抗戦——

北ヨーロッパの5ケ国によるリーグ戦はこのほどフインランドのトゥルクで行われ、アイスランドが4戦全勝という好調で優勝。世界選手権4位のデンマークは新進選手で臨んだため地元フインランドに敗れるなどして最下位に終った。

スウェーデン 12—11 フインランド
アイスランド 16—13 ノルウェー
デンマーク 11—8 ノルウェー
アイスランド 9—8 スウェーデン
ノルウェー 12—9 フィンランド
アイスランド 21—15 デンマーク
フィンランド 15—8 デンマーク
スウェーデン 10—9 ノルウェー
アイスランド 14—12 フィンランド
スウェーデン 21—12 デンマーク

【順位】①アイスランド4戦全勝②スウェーデン3勝1敗③フィンランド1勝3敗（得失点差1）④ノルウェー1勝3敗（マイナス4）⑤デンマーク1勝3敗（マイナス19）

北朝鮮でもハンドボール

北朝鮮（朝鮮民主々義人民共和国）でハンドボールが行われているかどうかは、日本の関係者にとっても大きな関心事だが、5月15日付「朝鮮体育新聞（日本語版）」は4月15日から同国で開かれた「万景台カップ争奪体育競技大会」の一種目としてサリウォン（沙里院）でハンドボールが実施されたと伝えている。これで北朝鮮においてもハンドボールが活発に行われていることが明らかになった

球界パトロール

なぐるけるは日常茶飯事

―欧州ハンドボール界に反省の声―

○……ハンドボールは一九七二年のミュンヘン・オリンピックで初めて正式種目として採用されるがスポーツとしての地位が向上したのと逆比例して、この頃はプレーが乱暴になってファンのひんしゅくを買うようになったことが心配されている。

3月パリで行われた世界選手権決勝ルーマニア対東ドイツ戦ではスイスの専門家フランツ・ウィトマーによれば、東ドイツチームは国際試合にふさわしくないプレーを見せ、しかも同国は予選ラウンドの3試合で二百四十二回の反則を犯していた。

○……また4月の西ドイツ選手権の決勝戦も、選手同士のなぐるけるの乱斗が展開されて、レフェリーのH・ロスマニートは「われわれはボクシング・レフェリーの役を勤めさせられた」とこぼしていた

元来、ハンドボールはバスケットボールと並んで、最もフェアなスポーツだとされていた。

ところが、わずか20平方メートルの場所に十二人もの選手が固まってひしめくために、プレーがややもすると乱暴になり、フェアかファウルかの判定も困難になった

そこでレフェリーの二人制が導入されたが、レフェリー同士で意見が違って"もめる"という場面もひんぱんである。

○……コーチのなかには、ハンドボール・テクニックのほかに、空手やレスリングまでも選手に練習させる者がいる。

往年の名手で現在はコーチを務める西ドイツのベルンハルト・ケンパはサッカーやアイスホッケーよりも体力を消耗させるスポーツだとさえ言っている。

こんな具合だからフェア・プレーは全く影をひそめてしまった。

ゲンコツやヒジで相手チームの選手の胸や腹を殴って突いたりするのは日常茶飯事で、ディフェンス側は攻撃する選手の首をしめ、足払いをかけるといった具合だ。

西ドイツの主力・シュミット選手もゲンコツで殴られ、まぶたを切った"被害者"の経験がある。

○……GKも危険になった。西ドイツナショナルのGKウペ・ラチエンは足の骨を折ったし、なかには「鉄カブトをかぶってプレーすべきだ」などという選手さえいる。

このため、西ドイツ協会(DHB)のオットー・ゼーバー会長は「こういうやりかたが続けばハンドボールはやがて滅びるだろう」と警告しており、西ドイツナショナルチームのコーチ、ウェルナー・ビックも「遅くとも一九七二年までには、スピード本位のフェアプレーに戻らねばならない」と言っている。

【この記事は共同通信社の御厚意で掲載したものです】

東独代表DHFK・ライプチッヒ初優勝

ヨーロッパカップ編 ⑩

DHFK圧倒的な強さを見せる

男子第7回大会

男子第7回大会は1965年から66年にかけて行なわれた。男子19チームを集めて行なわれた。チーム数は前回より2チームへっている。

一回戦に先だち、予選が6チームの間で戦われている。(スコアのうち右側が1回戦、左側が二回戦)

▽予選

ラピッド・ウィーン(オーストリア)	16―10	15―15	フレマール・ブラッセル(ベルギー)
オペラティ55・ハーグ(オランダ)	19―10	22―17	FC・ポルト(ポルトガル)
ホンベット・ブダペスト(ハンガリー)	32―15	18―17	ディミトロフ・ソフィア(ブルガリア)

まずは順当な結果におわった。この年、ブルガリアのディミトロフ・ソフィアは男女ともこの大会に出場している。ということは、男女ともブルガリア選手権者であったことを示している。

一チームを除き7チームが2勝

▽一回戦

DHfK・ライプチッヒ(東ドイツ)	27―9	38―23	HB・デュデランゲ(ルクセンブルグ)
RIK・ゲテボルグ(スウェーデン)	21―20	20―14	オペラティ55・ハーグ
ホンベッド・ブダペスト	28―15	17―16	アトレティーコ・マドリード(スペイン)
FIM・ハケナール(アイスランド)	19―15	16―13	フレデンスボルグ・オスロー(ノールウェー)
グラスホッパーズ・チューリッヒ(スイス)	20―12	15―11	ラピッド・ウィーン
コメトニ・ザグレブ(ユーゴー)	30―16	16―15	SMUC・マルセーユ(フランス)
KFUM・アーフス(デンマーク)	18―27	20―14	WKS・スラスク・ブレスロー(ポーランド)

1勝1敗で得失点差では、ブレスローが41―38で勝っているが、ブレスローは失格となって、KFUMが勝った。

デュクラ・プラーグ(チェコ)	21―10	11―7	FA・ゲッピンゲン(西ドイツ)

全く順当な結果におわった。KFUMは今回の選手団が試合をし引き分けているチーム。

各国の有名チームの名前がずらりと並んでいる。しかしながら、ルーマニア、ソ連のチームの名前がないのは何といっても淋しい。

よくもこう同じチームが国内で勝てるものだと思えるほど顔ぶれは有名チームばかりである。

ベスト・エイトはソ連、ルーマニアがチームを送っていない関係で、東西欧各4となっている。

全ての勝ちチームが2勝し準決勝に

DHfK・ライプチッヒ	17―15	18―14	ルコメトニ・ザグレブ
デュクラ・プラーグ	23―16	20―15	FIM・ハフナール
ホンベッド・ブダペスト	22―15	22―13	グラスホッパーズ・チューリッヒ
KFUM・アーフス	26―16	24―18	RIK・ゲテボルグ

全ての勝ちチームが2勝して、準決勝に進んでいるが、ここで興味深いのは、どの試合もホームゲームとビジターゲームのスコアの差がほとんどないということである。

残ったのは、この年破竹の勢いをもっていたDHfK、古豪デュクラ・プラーグ、ハンガリーの雄ホンベッド・ブダペスト、それにデンマークの古豪、KFMUの4チームとなった。

ここで負けたチームはいずれも実力的に見て、勝ったチームにはやや劣ることが確実なチームである。

ここにディナモ・ブカレスト、あるいはステアウア・ブカレストツルド・モスコーなどの名前のないのは何といっても淋しい限りで

ある。またぜひ一枚かんで欲しかったFA・ゲッピンゲンはこの当時チーム力の低下に悩んでおり、この後の年に行なわれるブンデスリーガにも初年度には顔が出せないほどであった。FA・ゲッピンゲンも復活しているから、70年〜71年のヨーロッパカップには、その雄姿が見られるであろう。

DHFK決勝へ

▽準決勝

ホンベッド・ブダペスト　16—25　25—12　KFUM・アーフス

1勝1敗、得失点差41—37でホンベッドの勝ち。

DHfK・ライプチッヒ　13—13　15—10　デュクラ・プラーグ

DHfK・ライプチッヒは圧倒的な強さで勝ち進んでいる。

話が前後するが、ヨーロッパカップが完全に現行の方式で定着したのはこの大会からである。

すなわち、決勝戦を除く、各試合はすべて二回戦方式で行なう現行の形が完全にこの大会で定着した。

前回は準々決勝、準決勝が二回戦方式であったが、予選と一回戦は一回しか対戦していない。

この現行方式が定着からして、今年を入れて、3回の大会が行なわれているが、この年のDHfKのように全く負け知らずですべての試合を勝ちぬいて優勝したのはまだこのDHfK・ライプチッヒのみである。

とにかく、実力が接近している各国のチャンピオンチームを相手にして勝ち進むだけでもたいへんなことなのに、一回戦、準々決勝準決勝各二試合、決勝の一試合、計七試合を勝ち続けるというのはよほどの実力と気力の充実なしには考えられないことである。

この年いかにDHfKが強かったかを判っていただくことが、この事実だけからでもできよう。

ホンベッド、ブダペストよく喰い下る

▽決勝（4月22日パリ）

DHfK・ライプチッヒ　16—14　ホンベッド・ブダペスト

DHfKはこの決勝でも、危気なく、喰い下るホンベッド・ブタペストを振りきり、女子のSC・ライプチッヒとともに輝く初栄冠をライプチッヒにもちかえった。

男女を同一の国が征覇したという例も今日までない。ましてや、男女とも同じ街が征覇するということが今後起る可能性はきわめて少ないということが云えよう。

これは世界選手権でかって、ルーマニアが男女征覇をとげているが、その偉業に決っして勝るとも劣らない大偉業をこのライプチッヒの街はなしとげている。

世界選手権では、陽の目を見ない東ドイツではあるが、ヨーロッパカップでは堂々とこれまで何人もがなし得ず、また今後おそらく誰もなしとげることができないであろう不滅の金字をハンドボールの球史の上に刻みつけているのである。

グンメルスバッハの抬頭

男子第8回大会

1966年から67年にかけて行われた第8回大会について、詳報は次号にゆずるとして、今号ではその概況をお伝えしておこう。

前大会で安定した強味をみせた東ドイツ代表のDHfK・ライプチッヒは、その試合ぶりからみて当分その王座を握りつづけるかにみえたが、準々決勝でデュクラ・プラーグ（チェコ）に前回のあだを返されて2連覇の夢はあっさり消えてしまった。決勝でデュクラと対戦したのは西ドイツの期待を一身に集めたVfL・グンメルスバッハであったが、多方の予想はデュクラ有利とされた。しかし、グンメルスバッハは前半6—7という劣勢を後半みごとに逆転して17—13で決勝、初優勝を飾ったのである。

ライプチッヒの男女優勝で世界ハンドボール界は東欧勢が制し、この傾向は今日まで受けつがれているといってよい。グンメルスバッハの優勝はその流れをいちじ食いとめたとはいえるが、流れそのものを変える力はなかったのである。

しかもグンメルスバッハには東欧圏からの移籍選手が多勢活躍していたことを考えると、よけい西欧圏の巻きかえしと見るわけにはいかない。

さて第8回大会はいぜん有力クラブが上位に勝ち進んだが、その内容は必しも楽なものではなく、特に前回準優勝のホンベッド・ブダペスト（ハンガリー）は1回戦でハケナール（アイスランド）に20—13、14—19と苦戦、準々決勝ではツルド・モスクワ（ソビエト）の前に13—15、19—20で連敗、失格してしまった。

このほか第6回優勝のディナモブカレスト（ルーマニア）も1回戦でGKS・グダンスク（ポーランド）に1勝1敗、準々決勝で強豪HG・コペンハーゲン（デンマーク）に1勝1敗、そして準決勝でデュクラ・プラーグに10—15、7—10で敗れてしまった。

あと二・三度と前々号に書いたが誌面の関係で、なかなか思うように掲載できずに、進み方は遅々としている。あと三度ぐらいでヨーロッパカップとは別れることにしたい。

〔藤本　強〕

第21回 全日本高校選手権 各県予選記録（上）

◎太字は代表校
◎6月18日報告分まで

東北

▽……山形県

▼男子決勝リーグ
大石田 7—5 寒河江
東根工 8—7 新庄工
大石田 7—6 東根工
寒河江 12—10 新庄工
大石田 14—6 新庄工
寒河江 15—1 東根工
【順位】①大石田②寒河江③東根工④新庄工
大石田高は3年ぶり6度目の代表

▼女子決勝
米沢女 4（分）4 竹田女
▽同再試合
米沢女 5—2 竹田女
米沢女高は3年ぶり3度目の代表

▽……岩手県

▼男子1回戦（1試合）
盛岡四 13—6 岩手
▽同準々決勝
盛岡商 10—7 盛岡四
花巻農 23—3 生活学園
花巻北 12—8 一関工
盛岡一 10—8 盛岡市立
▽同準決勝
盛岡商 15—7 花巻農
盛岡一 11—10 花巻北
▽同決勝
盛岡商 11—7 盛岡一
盛岡商は2年ぶり3度目の代表

▽女子1回戦（1試合）
平館 11—2 大東大原
▽同準々決勝
花巻南 10—3 平館
花巻農 3—2 花巻北
谷村学院 8—2 一関修紅
岩手女 6—4 黒沢尻南
▽同準決勝
花巻南 4—3 花巻農
岩手女 10—7 谷村学院
▽同決勝
花巻南 11—4 岩手女
花巻南高は5年連続9度目の代表

▽……福島県

▼男子1回戦（2試合）
岩瀬農 23—10 安積商
郡山西工 12—5 本宮
安積 18—6 若松一
▽準々決勝
聖光学院 17—8 岩瀬農
好間 15—10 郡山西工
南会津 9—7 小野
福島 16—5 安積
▽同準決勝
聖光学院 17—8 好間
福島 18—5 南会津
▽同決勝
福島 17—10 聖光学院
福島高は4年ぶり10度目の代表

▼女子1回戦
郡山女 17—5 若松一
緑ケ丘 4—3 安積女
小高農 11—4 福島西女
岩瀬農長沼 8—5 梁川
日本女工 6—4 福島女
▽同準々決勝
本宮 10—5 郡山女
東白川農商 11—3 緑ケ丘
小高農 10—2 岩瀬農長沼
▽同準決勝
石川 21—4 日本女工
本宮 7—5 東白川農商
石川 10—6 小高農
▽同決勝
石川 9—6 本宮
石川高は初出場

▽……青森県

▼男子予選リーグA組
三本木 11—9 青森
鰺ケ沢 19—13 青森
鰺ケ沢 19—8 三本木
▽同B組
七戸 13—9 柏木農
青森商 14—10 七戸
青森商 15—14 柏木農
▽同決勝
鰺ケ沢 9—8 青森商
鰺ケ沢高は4年連続4度目の代表

▼女子決勝リーグ
青森西 16—1 大湊
三本木 9—4 七戸
青森西 20—6 七戸
三本木 11—8 大湊
大湊 7—4 七戸
青森西 23—3 三本木
【順位】①青森西②三本木③大湊④七戸
青森西高は初出場（青森県から女子の代表が送られるのは初）

関東

▽……千葉県

▼男子予選トーナメント
小金 18—13 国府台
八千代 18—14 鶴舞
清水 19—17 木更津
佐原 20—9 舞鶴雪解沢
▽同決勝リーグ
小金 15—8 八千代
佐原 22—5 清水
小金 20—4 清水
佐原 17—8 八千代
清水 14—10 八千代
佐原 5—4 小金
【順位】①佐原②小金③清水④八千代。佐原高は2年ぶり4度目の代表

▼女子1回戦（2試合）
木更津 15—7 和洋女
八千代 13—1 鶴舞
▽同準決勝
昭和学院 23—1 木更津
佐原女 14—2 八千代
▽同決勝
昭和学院 7—6 佐原女
昭和学院高は4年連続4度目の代表

▽……関東ではこのほか神奈川男子が横浜一商、大和、同女子が平塚江南、栃木男子が国学院栃木、同女子が栃木女、山梨男子が塩山商、同女子が山梨とそれぞれ代表校に決定している。（詳報次号）

北陸・信越

▽……福井県

▼男子1回戦（3試合）
藤島 16－10 福井商
武生商 15－6 高志
若狭 28－8 敦賀工

▽同準決勝
羽水 12－8 藤島
若狭 18－10 武生商

▽同決勝
若狭 15－13 羽水
若狭高は3年ぶり2度目の代表

▼女子1回戦（2試合）
武生商 8－7 高志
藤島 6－5 羽水

▽同準決勝
福井商 10－3 武生商
若狭 6－5 藤島

▽同決勝
福井商 6－2 若狭
福井商は2年連続4度目の代表

▽……新潟県

▼男子準決勝（＝1回戦）
巻 14－13 柏崎
柏崎工 19－3 明訓

▽同決勝
巻 10－9 柏崎工
巻高は初出場

▼女子決勝リーグ
柏崎常盤 13－2 巻
巻 6－3 明訓
柏崎常盤 9－2 明訓
【順位】①常盤②巻③明訓
柏崎常盤高は4年連続7度目の代表

▽……富山県

▼男子1回戦
二上工 20－7 有機
富山 12－2 富山工
富山商 14－8 雄山
高岡東 棄権 大沢野工
富山中部 13－8 富山東
小杉 19－10 高岡商
氷見 25－6 高岡

▽同準々決勝
二上工 13－9 八尾
富山商 13－12 富山
高岡東 21－5 富山中部
小杉 10－9 氷見

▽同準決勝
二上工 13－8 富山商
高岡東 8－6 小杉

▽同決勝
高岡東 11－8 二上工
高岡東高は初出場

▼女子1回戦（3試合）
小杉 28－4 清充女
有磯 8－0 富山北部
高岡女 20－2 高岡

▽同準決勝
小杉 5（分）5 富山女
抽せんで小杉高の勝ち
高岡女 14－3 有磯

▽同決勝
高岡女 12－3 小杉
高岡女高は4年連続5度目の代表

東海

▽……愛知県（最終予選成績）

▼男子予選トーナメント1回戦
桜台 21－4 岡崎
時習館 13－8 尾北
名城大付 14－4 中川商
安城 14－10 東山工
中京 18－8 愛知工
松蔭 12－7 蒲郡
一宮工 20－11 豊橋工
若宮 15－10 岡崎商

▽同2回戦
桜台 17－7 中京
松蔭 10－7 時習館
名城大付 5－2 若宮商
安城 15－13 一宮工

▽同決勝リーグ
桜台 7－3 松蔭
名城大付 15－7 安城
桜台 6－2 名城大付
松蔭 14－3 安城
桜台 14－6 安城
松蔭 6－3 名城大付
【順位】①桜台②松蔭③名城大付④安城
桜台高は2年ぶり18度目の代表
松蔭高は初出場

▼女子予選トーナメント1回戦
名女商 13－5 半田
一宮 10－7 岡崎北
蒲郡 10－2 半田商
若宮 5（分）5 淑徳
抽せんで若宮高の勝ち
高蔵女商 11－3 安城
刈谷北 5－2 中川商
西尾 12－6 千種
豊橋商 12（分）12 愛知商
抽せんで豊橋商の勝ち

▽同2回戦
高蔵女商 9－4 一宮
西尾 12－6 若宮商
蒲郡 7－4 刈谷北
名女商 17－4 豊橋商

▽同決勝リーグ
名女商 12－7 西尾
高蔵女商 6－2 蒲郡
名女商 6－4 高蔵女商
西尾 11－6 蒲郡
高蔵女商 10－5 西尾
名女商 8－4 蒲郡
【順位】①名女商②高蔵女商③西尾④蒲郡
名女商は7年連続7度目の代表
高蔵女商は2年連続3度目の代表

▽……三重県

▼男子1回戦（1試合）
高田 22－6 亀山

▽同準々決勝
四日市工 14－6 四日市
四日市商 7－0 津実業
津 20－7 高田
津工 31－4 海星

▽同準決勝
四日市工 15－6 四日市商
津工 14－13 津

▽同決勝
津工 14－9 四日市工
津工は初出場

▼女子1回戦
亀山 6－3 松阪女
上野 12－4 千津
四日市商 13－7 上野商
菰野 6－4 白山

▽同準々決勝
津女 4－1 亀山
メリノール 4－3 上野
四日市 9－3 四日市商
暁 24－2 菰野

▽同準決勝
津女 3－2 メリノール
四日市 7－6 暁

▽同決勝
津女 3－1 四日市
津女高は2年連続7度目の代表

近畿

▽……奈良県

▼男子1回戦（3試合）
桜井商 11－4 畝傍
生駒 16－7 奈良
添上 15－4 郡山

▽同準々決勝
十津川 15－11 橿原
桜井商 11－8 東大寺
添上 34－3 育英
生駒 23－11 正強

▽同準決勝
添　上 23―4 生　駒
桜井商 16―7 十津川
▽同決勝
添　上 15―6 桜井商
添上高は4年連続11度目の代表
▼女子1回戦（2試合）
添　上 5―3 郡　山
育　英 5―4 桜井商
▽同準決勝
十津川 5―2 添　上
生　駒 20―2 育　英
▽同決勝
生　駒 11―4 十津川
生駒高は2年連続6度目の代表

▽……滋賀県（開催県）

▼男子準決勝
八幡工 6―5 高　島
彦根東 11―10 彦根工
▽同決勝
彦根東 13―9 八幡工
彦根東高は8年ぶり6度目、八幡工は3年連続4度目の代表
▼女子決勝リーグ
八幡商 4―2 安山女
彦根東 3―2 彦根西
八幡商 11―4 彦根東
安山女 13―1 彦根西
高　島 6―3 彦根東
高　島 2(分)2 八幡商
安山女 18―1 彦根東
高　島 6―3 彦根西
高　島 5―2 安山女
八幡商 12―3 彦根西
【順位】①八幡商②高島③安山女④彦根東⑤彦根西
八幡商は2年ぶり6度目、高島は3年ぶり2度目の代表

▽……和歌山県

▼男子予選リーグA組
県和歌山商 8―3 那　賀
粉河高、新宮高棄権のため1試合のみ
▽同B組
市和歌山商 9―3 桐　蔭
御坊商工 14―9 笠　田
市和歌山商 20―7 笠　田
桐　蔭 16―7 御坊商工
市和歌山商 15―10 御坊商工
桐　蔭 15―4 笠　田
▽同決勝トーナメント1回戦
県和歌山商 14―4 桐　蔭
市和歌山商 10―8 那　賀
▽同決勝
県和歌山商 12―7 市和歌山商
県立和歌山商は3年ぶり11度目の代表
▼女子決勝リーグ
粉　河 7―2 県和歌山商
御坊商工 12―4 貴　和
粉　河 11―3 貴　和
御坊商工 6―3 県和歌山商
県和歌山商 6―5 貴　和
粉　河 4―2 御坊商工
【順位】①粉河②御坊商工③県立和歌山商④貴和
粉河高は3年連続3度目の代表

▽……大阪府

▼男子第1次予選1回戦
市立工芸 不戦勝 大阪学院
桜　塚 15―4 上　宮
生　野 12―6 淀川工
富田林 18―7 大　商
追手門 7―6 北　淀
天王寺 10(分)10 佐野工
抽せんで天王寺高の勝ち
北　陽 10―6 初　芝
清　風 11(分)11 勝　山
抽せんで清風高の勝ち
泉大津 22―1 北花工
池　田 9―4 泉　北
都島工 17―11 浪　商
茨　木 17―7 西野田工
鳳 13―9 阿倍野
東住吉工 23―4 山　本
東住吉 13―12 食品産業
花　園 不戦勝 東淀工
鶴見商 18―8 和泉工
▽同2回戦
枚　方 8―4 池　田
都島工 11―7 春日丘
北　野 13―11 茨　木
鳳 29―9 泉　南
豊　中 11―8 東住吉工
堺　工 16―9 東住吉
花　園 6(分)6 住　吉
抽せんで花園高の勝ち
八　尾 19―12 鶴見商
寝屋川 26―1 市立工
城東工 16―8 桜　塚
生　野 21―12 淀　商
富田林 10―8 岸和田
桃　山 16(分)16 追手門
抽せんで桃山高の勝ち
泉　陽 18―8 天王寺
北　陽 29―4 清　風
三国丘 18―5 泉大津
▽同3回戦
枚　方 9―4 都島工
鳳 16―9 北　野
堺　工 18―17 豊　中
八　尾 20―5 花　園
寝屋川 16―13 城東工
生　野 12―5 富田林
泉　陽 11―8 桃　山
三国丘 16―13 北　陽
勝者8校は最終（第3次）予選へ
▼女子第1次予選1回戦
春日丘 13―0 鳳
三国丘 8―2 泉　北
北　淀 4―3 初　芝
枚　方 10―2 箕　面
梅　花 11―3 八　尾
▽同2回戦
大　谷 10―1 春日丘
桜　塚 7―3 城　南
泉大津 7―3 池　田
鶴見商 9―7 三国丘
住吉学園 12―7 北　淀
枚　方 14―4 清　友
寝屋川 21―0 岸和田
梅　花 6(分)6 豊　中
抽せんで梅花学園高の勝ち
▽同3回戦
大　谷 16―2 桜　塚
鶴見商 14―2 泉大津
枚　方 4―3 住友学園
梅　花 11―5 寝屋川
勝者4校は最終（第3次）予選へ
（注）第2次予選以降の記録は次号

中国

▽……鳥取県（男子のみ）

▼男子決勝リーグ
境 9―6 倉吉工
境港工 21―4 倉吉産業
倉吉工 8―7 倉吉産業
境港工 5―2 境
境 32―9 倉吉産業
境港工 11―10 倉吉工
【順位】①境港工②境③倉吉工④倉吉産業
境港工は2年連続3度目の代表

四国

▽……高知県

▼男子1回戦（2試合）
弘岡農 15―1 中　村
伊野商 19―9 幡多農
▽同準々決勝
追手前 17―2 弘岡農
須崎工 27―6 伊野商
高知西 16―8 宿毛工
土　佐 不戦勝 須　崎

▽同準決勝
追手前 25—7 土佐
須崎工 7—6 高知西
▽同決勝
追手前 13—4 須崎工
追手前高は2年連続3度目の代表

▼女子1回戦(2試合)
伊野商 4—1 城山
幡多農 7—4 佐川
▽同準々決勝
追手前 11—5 伊野商
高岡 7—1 中村
高知西 8—1 幡多農
山田 17—4 中芸
▽同準決勝
追手前 7—4 高岡
高知西 10—5 山田
▽同決勝
高知西 5—3 追手前
高知西高は4年連続6度目の代表

▽……愛媛県

▼男子1回戦
今治西 16—9 中島
松山東 15—5 新居浜商
新田 17—6 松山商
松山工 30—7 今治南
松山南 16—11 新居浜東
▽同準々決勝
新居浜工 29—7 今治西
新田 10—19 松山東
松山工 11—5 今治工
松山北 11—7 松山商
▽同準決勝
新居浜工 22—7 新田
松山工 18—7 松山北
▽同決勝
新居浜工 14—5 松山工
新居浜工は3年連続18度目の代表

▼女子1回戦(1試合)
大州農 12—5 今治西
▽同準々決勝
土居 16—4 今治南
東温 8—7 新居浜東
新居浜西 13—3 明徳
松山商 10—5 大州農
▽同準決勝
土居 15—4 東温
高松工芸 20—7 高松商
▽同準々決勝
三本松 16—5 丸亀
高松一 20—5 坂出工
土庄 12—10 高松南
多摩津工 9—8 高松工芸
▽同準決勝
三本松 5—4 高松一
多摩津工 14—7 土庄
▽同決勝
新居浜西 5—2 松山商
▽同決勝
土居 8—3 新居浜西
土居高は初出場
▽参考記録
新居浜商 7—3 土居

▽……香川県

▼男子1回戦(3試合)
丸亀 25—9 多度津水産
高松一 15—3 高松東
高松工芸 20—7 高松商
▽同準々決勝
三本松 16—5 丸亀
高松一 20—5 坂出工
土庄 12—10 高松南
多度津工 9—8 高松工芸
▽同準決勝
三本松 5—4 高松一
多度津工 14—7 土庄
▽同決勝
三本松 8—6 多度津工
三本松高は2年連続2度目の代表

▼女子1回戦(1試合)
三本松 12—3 高松一
▽同準決勝
三本松 6—2 高松南
高松女商 10—1 観音寺商
▽同決勝
高松女高 3—2 三本松
高松女子商は初出場

九州

▽……長崎県

▼男子予選リーグA組
口加 30—2 西海
佐世保市立 14—13 西海
口加 18—8 佐世保市立
▽同B組
佐世保北 12—8 長崎工
佐世保北 12—8 鹿町
長崎工 14—8 鹿町
▽同代表決定戦
佐世保北 9—6 口加
佐世保北高は2年連続2度目の代表

▼女子予選リーグA組
佐世保商 22—0 佐世保女
長崎北 13—4 佐世保市立
佐世保商 26—5 佐世保市立
長崎北 10—3 佐世保女
佐世保商 19—4 長崎北
佐世保市立 12—7 佐世保女
▽同B組
島原農 16—3 佐世保北
佐世保北 20—2 島原南
島原農 21—2 島原南
▽同代表決定戦
島原農 5—4 佐世保商
島原農は2年連続3回目の代表

▽……大分県

▼男子決勝リーグ
鶴崎工 20—13 大分商
国東 13—12 大分東
大分東 20—16 大分商
鶴崎工 28—7 国東
国東 9—6 大分商
鶴崎工 14—13 大分東
【順位】①鶴崎工②国東③大分東④大分商
鶴崎工は4年連続7度目の代表

▼女子決勝リーグ
別府青山 9—5 玖珠農
大分東 22—4 大分商
玖珠農 13—2 中津北
別府青山 20—2 大分商
大分東 14—3 中津北
大分商 6—5 中津北
大分東 12—7 玖珠農
別府青山 11—0 中津北
玖珠農 18—3 大分商
別府青山 6—4 大分東
【順位】①別府青山②大分東③玖珠農④大分商⑤中津北
別府青山高は初出場

▽……沖縄県(速報)

▼男子準々決勝
中部工 13—10 小禄
興南 11—9 糸満
沖縄工 14—8 八重山
那覇商 10—6 宮古
▽同準決勝
興南 — 中部工
沖縄工 — 那覇商
▽同決勝
興南 14—6 沖縄工
興南高は5年ぶり2度目の代表

▼女子準々決勝
八重山 6—2 那覇
浦添 16—6 豊見城
知念 18—4 沖縄
小禄 18—3 那覇商
▽同準決勝
浦添 10—4 八重山
小禄 17—10 知念
▽同決勝
小禄 16—7 浦添
小禄高は4年連続4度目の代表

各地学生リーグ戦 続報

中国・四国

山口大 得失点差で 初優勝

◇5月30、31日 ◇岡山サッカー場 ◇参加1部5校、2部6校

1部は有力とみられた松山商大（愛媛）が第1日山口大に敗れて調子を乱し、優勝争いは混とんとなった。

第2日に進んで前日2勝の山口大が広島大福山にも勝って3勝をマーク、首位を確定したかにみえたが第4戦で広島大に敗退、岡山大―広島大の最終戦で岡山大が8点差で勝てば逆転優勝という最後までもつれた戦況になった。しかし岡山大は前半拙戦して2点差にとどまり、結局得失点差で上廻る山口大が初優勝を遂げた。

山口大が中四国学生のタイトルを握るのは昭和35年秋の王座予選会、42年秋のリーグについで3度目。

2部はカムバックをめざす広島商大が圧倒的な強さをみせた。

▼1部

岡山大 23（8－9、15－6）15 広島大福山

山口大 14（6－6、8－6）12 松山商大

広島大福山 16（11－9、5－7）16 広島大

引き分け

山口大 17（7－2、10－7）9 岡山大

松山商大 25（11－7、14－8）15 広島大

山口大 10（6－6、4－2）8 広島大福山

岡山大 19（8－7、11－9）16 松山商大

広島大 10（3－4、7－4）8 山口大

松山商大 27（14－9、13－5）14 広島大福山

岡山大 16（6－10、10－4）14 広島大

【順位】①山口大3勝1敗（得失点差10）②岡山大3勝1敗（5）③松山商大2勝2敗④広島大1勝2敗1分⑤広島大福山3敗1分

▽2部予選リーグA組

広島商大 30－9 山口大工学部

広島商大 30－15 広島工大

広島工大 23－12 山口大工学部

▼同B組

近大呉工学部 26－18 愛媛大

香川大 21－11 近大呉工学部

香川大 16－14 愛媛大

▽同5・6位決定戦

愛媛大 17－12 山口大工学部

▽同3・4位決定戦

広島工大 23－16 近大呉工学部

▽同1・2位決定戦

広島商大 25－9 香川大

【順位】①広島商大②香川大③広島工大④近畿大呉工学部⑤愛媛大⑥山口大工学部

関西 男子2〜4部

関西2部は大阪体大
神大を得失点差でかわす

◇4月25日〜5月16日 ◇大府大グランドほか ◇参加 2部6校、3部6校 4部9校（1部及び女子は本誌前号既報）

男子2部は有力とみられた大阪体大が大阪大の健斗にあって敗れたが、同率の神戸大を得失点差でおさえて2度目の優勝を決めた。

▼2部

京都大 26（13－4、13－3）7 大阪外語大

大阪大 22（10－7、12－6）13 大阪体大

大阪体大 30（19－3、11－5）8 立命館

神戸大 22（7－7、15－5）12 大阪外語大

大阪大 14（7－9、7－4）13 立命館

大阪体大 18（10－7、8－7）14 神戸大

京都大 12（8－2、4－6）8 大阪体大

神戸大 17（10－4、7－6）10 大阪大

立命館 30（13－6、17－8）14 大阪外語大

京都大 22（11－6、11－5）11 立命館

大阪体大 28（12－5、16－6）11 大阪大

大阪大 17（11－8、6－8）16 京都大

大阪体大 21（11－9、10－3）12 大阪外語大

神戸大 25（12－2、13－4）6 立命館

神戸大 17（7－3、10－7）10 京都犬

【順位】①大阪体大4勝1敗（得失点差48）②神戸大4勝1敗（39）③京都大3勝2敗④大阪大2勝3敗（マイナス15）⑤立命館2勝3敗（マイナス36）⑥大阪外語大5敗

京都産大、無難な全勝

▼3部

京都産業大 12－9 大阪府立大

京都産業大 12－10 大阪市立大

大阪府立大 18－15 大阪市立大

京都産業大 18－9 和歌山大

大阪府立大 11－6 和歌山大

大阪府立大 8－5 大阪薬科大

追手門学院 14－13 和歌山大

京都産業大 16－7 大阪薬科大

追手門学院 15－8 大阪府立大

大阪薬科大 14－13 大阪市立大

追手門学院 15－9 大阪薬科大

追手門学院 26－11 大阪市立大

和歌山大 13－10 大阪薬科大

京都産業大 16－8 追手門学院

和歌山大 12－8 大阪市立大

【順位】①京都産業大5戦全勝②追手門学院4勝1敗③大阪府立大3勝2敗④和歌山大2勝3敗⑤大阪薬科大1勝4敗⑥大阪市立大5敗

近大―京都教大引き分く

▼4部

大阪工大 15－2 関西外語大

大阪教大 21－11 関西外語大

近畿大 29－2 天理

竜谷 14－12 京都教大

大阪歯科大 24－5 天理

京都工大 17－10 大阪歯科大

大阪工大 19－11 天理

大阪工大 19－14 京都工大

大阪教大 19－15 京都工大

京都教大 － 関西外語大

竜谷 17－9 京都工大

大阪歯科大 15－5 関西外語大

近畿大 14－13 竜谷

近畿大 24－9 関西外語大

近畿大 22－14 京都工大

関西外語大 14－5 天理

大阪教大 12－6 天理

京都教大 26－6 大阪教大

近畿大 16－12 大阪歯科大

京都教大 21－13 大阪工大

竜谷 － 大阪歯科大

竜谷 ― 大阪教大
近畿大 14(分)14 京都教大
大阪教大 16―14 大阪工大
竜谷 25―6 天理
大阪歯科大 18―13 大阪教大
京都教大 19―6 天理
京都工大 15―5 関西外語大
近畿大 23―15 大阪工大
大阪工大 20―9 竜谷
京都教大 11―8 大阪歯科大
近畿大 14―12 大阪教大
京都工大 14―8 天理
竜谷 31―4 関西外語大
京都教大 20―12 京都工大
大阪工大 16―12 大阪歯科大

【順位】①近畿大7勝1分②京都教育大6勝1敗1分③竜谷大6勝2敗④大阪工大5勝3敗⑤大阪教育大4勝4敗⑥京都工業繊維大・大阪歯科大3勝5敗⑧関西外語大1勝7敗⑨天理大8敗

▼男子各部入れ替え戦（5月 日 大阪市大）

▽1・2部
大阪体大(2部) 20(10―7 10―4)11 甲南(1部)

▽2・3部
京都産大(3部) 21(9―12 12―5)17 大阪外語大(2部)

▽3・4部
近畿大(4部) 28―15 大阪市立大(3部)

関西男子1部（既報）

①同志社	5戦全勝
②大経大	4勝1敗
③桃山学	3勝2敗
④関　大	1勝4敗
⑤関　学	1勝4敗
⑥甲南大	1勝4敗

女　子（既報）

①甲子園	4戦全勝
②大体大	3勝1敗
③夙　川	2勝2敗
④大教大	1勝3敗
⑤大薬大	4　敗

（注）武庫川大は棄権

男子1部個人得点10傑

①松　井	（同志社）	30
②土　田	（桃山学）	28
③清　水	（大経大）	25
④脇　田	（大経大）	22
⑤塩　尻	（関　大）	20
⑥宮　松	（関　大）	19
⑦中　井	（同志社）	18
⑧川　上	（関　学）	17
⑨中　野	（同志社）	16
⑩奥　川	（大経大）	14

女子個人得点10傑

①岩　井	（甲子園）	20
②中　本	（甲子園）	18
③石　井	（夙　川）	17
④玉　岡	（大体大）	16
⑤　辻	（甲子園）	11
⑥吉　開	（甲子園）	10
⑥篠　原	（甲子園）	10
⑥藤　本	（夙　川）	10
⑥　辻	（夙　川）	10
⑩森　崎	（大体大）	9
⑩吉　本	（大体大）	9

10傑は男女とも本誌調べ

北陸・信越

金沢工大、富山大の9連ぱ阻む

◇6月13、14日、◇富山大学体育館、◇参加7校

2組の予選リーグ後、各組同位者によって順位が争われた。決勝は常勝富山大と進境著しい金沢工大の間で行い。金沢工大が富山の単調に射つシュートから逆襲、気力にあふれた速攻で走り勝ち鮮やかな初優勝を飾った。富山大の昭和41年春からの9連ぱを惜しくも阻まれたが卒業の痛手の学園紛争のあおりで新入部員も少なく敗退もやむをえなかった。

各校とも若手の成長で今後に大巾なレベルアップが期待できよう。

▽予選リーグA組
本州大 16―8 信州大
富山大 27―10 金沢美工大
富山大 21―11 本州大
金沢美工大 20―14 信州大
本州大 17―13 金沢美工大
富山大 24―10 信州大

【順位】①富山大②本州大③金沢美術工芸大④信州大（注）信州大は規定により通算順位7位に決定。

▽同B組
金沢工大 16―8 金沢大
金沢大 21―15 福井大
金沢工大 25―12 福井大

【順位】①金沢工大②金沢大③福井大

▽5・6位決定戦
福井大 25(10―6 15―11)17 金沢美術工芸大

▽3・4位決定戦
金沢大 25(13―4 12―6)10 本州大

▽決勝
金沢工大 20(11―6 9―4)10 富山大

大体大と甲子園が初優勝

関西学生新人戦

関西学生新人戦は5月23、24日大阪市大グランドに男子16校、女子5校が参加して開かれた。

男子は持ち駒豊富な大阪体大が各試合とも安定した攻守を見せて勝ち抜き初優勝を飾った。

女子はリーグ戦とあまり変わらぬ陣容での対戦となり甲子園大が圧倒的な強味を発揮、初優勝した。

▽男子トーナメント1回戦
大阪体大 18―8 京都産業大
近畿 12―10 京大
関西大 12―10 関西
大阪工大 11―10 大阪市立大
竜谷 19―9 追手門学院
大阪経大 18―6 立命館
大阪天立大 11―2 大阪大
神戸 11―7 甲南

▽同準々決勝
大阪体大 20―12 近畿
関西大 16―9 大阪工大
竜谷 17―9 神戸
大阪経大 26―12 大阪府立大

▽同準決勝
大阪体大 17―7 関西大
大阪経大 27―13 竜谷

▽同決勝
大阪体大 22(11―4 11―4)8 大阪経大

▽予選ラウンド
夙川 18―2 大阪薬大
甲子園 15―2 大阪教大
大阪体大 17―1 大阪薬大
夙川 16―2 大阪教大
甲子園 12―4 大阪体大

▽決勝リーグ
甲子園 12―4 夙川
大阪体大 7―5 夙川
甲子園 17―2 大阪体大

関東は流会

第8回関東学生新人戦は5月24日駒沢第一球技場で開幕したが、雨天のため日程が長びき男子は18校4組の予選リーグで日体大、中央大、東京教育大、法政大の4校が決勝トーナメント出場権を得たところで、女子は日体大―東京女体大の決勝を前にしてそれぞれ中止、今年度は流会することになった。

早大が7度目の栄冠

第10回早慶明3大学定期戦は6月13日、早大記念会堂で行われた。

前回優勝の明治は元気なく早慶戦に優勝がかかり、早稲田が立ちあがりから巧くリード、後半開始後6点差がついた。しかし慶応もよく追いあげ後半26分には17―18とつめ寄ったが早稲田は辛くも逃げ切り2年ぶり通算7度目の優勝を飾った。

慶応 20(14―6 6―10)16 明治
早稲田 22(9―8 13―5)13 明治
早稲田 19(6―10 13―8)18 慶応

各地の記録

大同製鋼が初優勝 ブラザー、田村紡に一矢

東海実業団

第6回東海実業団選手権は5月24、31日の2日間愛知県体育館と名古屋市体育館に男子14、女子3チームが参加して開かれた。

男子は4組の予選のあと各組勝者によるトーナメントで争われたが、各チームとも有力新人を補強しレベルアップ、好試合がつづいた。

その結果、野田、藤中の両オリンピック候補をもつ大同製鋼（愛知）がたくましいチーム力を発揮して初優勝、常盤工業（岐阜）の6年連続優勝を阻んだ。

女子は3チームが2回戦総当りを行い、第1日は順当な結果に終ったが、第2日最終戦でブラザー工業（愛知）が田村紡（三重）を破る波乱があり、両者3勝1敗の同率から得失点差で田村紡が辛くも6連勝を決めた。

ブラザー工業が田村紡を降したのは初めて。これまで10連敗していた。田村紡が東海地区で敗れたのは昭和42年9月（第19回東海選手権・対愛知紡）以来のことである。

▽男子予選順位

〔A組〕①常盤工業（岐阜）②トヨタ車体（愛知）③日本合成ゴム（三重）

〔B組〕①新日鉄名古屋（愛知）②北陸電力（福井）③日本碍子（愛知）④静岡日野自動車（静岡）

〔C組〕①大同製鋼（愛知）②日本耐酸壜③三菱油化（三菱）④タヨシ産業（愛知）

〔C組〕①本田技研鈴鹿（三重）②パイロットインキ（愛知）③ブラザー工業

▽同決勝トーナメント

常盤工業 17（9―10、8―5）15 新日鉄名古屋

大同製鋼 24（15―5、9―4）9 本田技研鈴鹿

▽同3位決定戦

新日鉄名古屋 22（9―9、13―9）18 本田技研鈴鹿

▽同決勝

大同製鋼 22（10―10、12―9）19 常盤工業

得	【大同】		【常盤】	得
0	柳川	GK	渡辺	0
6	戸谷	FP	丹羽	3
5	野田		高橋	6
6	藤中		安井	1
1	加藤		山田	7
2	西村		鳥村	0
2	沖野		大野	1
0	松浦		堀内	1
0	伊藤		石丸	0
			田中丸	0

22（1）7MT（1）19

▽女子決勝リーグ（2回戦制）

田村紡（三重）12（9―4、3―1）5 大洋紡（岐阜）

ブラザー工業（愛知）12（3―2、9―2）4 大洋紡

田村紡 13（5―9、8―1）10 ブラザー工業

ブラザー工業 9（7―1、2―1）2 大洋紡

田村紡 20（13―1、7―3）4 大洋紡

ブラザー工業 8（2―3、6―2）5 田村紡

【順位】①田村紡3勝1敗（得失点差28）②ブラザー工業3勝1敗（15）③大洋紡4敗

熊本トヨタが初優勝

第6回九州選手権（男子のみ）は今年度のブロック選手権のトップを飾って5月2・3の両日宮崎・都城泉ケ丘高球技場に九州6県の代表11チームが参加、トーナメントで行われた。

ベストフォアは教職員3、実業団1の色分けとなったが、準決勝で2連勝を狙う長崎教員に抽せん勝ちした熊本トヨタ（熊本）が余勢をかって決勝でも大分教員に快勝、初出場で優勝をとげた。この大会で実業団の優勝は初めて。

▽1回戦（3試合）

福岡教員 21（12―11、9―8）19 佐世保ク（長崎）

大分教員 21（10―8、11―5）13 海上自衛隊（鹿児島）

宮崎大 18（8―9、10―8）17 鹿児島教員

▽準々決勝

福岡教員 15（10―7、5―7）14 熊本教員

大分教員 30（14―11、15―8）19 宮崎ク（宮崎）

熊本トヨタ（熊本）21（13―7、8―9）16 全福岡（福岡）

長崎教員 23（12―12、11―7）19 宮崎大

▽同準決勝

熊本トヨタ 12（0―2、2―0 ⋮ 6―4、4―6）12 長崎教員

引き分け 抽せんで熊本トヨタの勝ち

大分教員 16（7―6、9―6）12 熊本教員

▽同決勝

熊本トヨタ 28（15―10、13―11）21 大分教員

得	【大分】		【トヨ】	得
0	柿崎	GK	三穂野	0
11	中釜	FP（審・近藤、日野）	関	1
5	佐藤		江口	0
0	福田		秦	8
0	清水		毛利	7
1	湯浅		坂田	4
2	友永		井	7
2	吉良		竹下	1
0	石甲斐		島田	0
			永田	0
			横山	0

28（1）7MT（5）21

中国は日新製鋼呉勝つ

第15回中国選手権は6月20、21日の両日、境港市で行われ日新製鋼呉（広島）が田原外郎ク（山口）を19―10で破って初優勝をとげた。

日本ビクターがデビュー

（詳報次号）

▼第4回群馬・埼玉・茨城3県対抗大会（6月・水海道二高）

▽一般男子リーグ

全埼玉 28―18 前橋高OB（群馬）

日立製作所（茨城）28―15 前橋高OB

日立製作所 27―18 全埼玉

【順位】①日立製作所②全埼玉③前橋高OB

▽同女子決勝（1試合）

日本ビクター（茨城）28（17―0、11―1）1 前橋ピジョンズ（群馬）

▽教員リーグ

茨城 33―21 群馬

埼玉 39―13 群馬

埼玉 40―10 茨城

【順位】埼玉②茨城③群馬

▽高校男子リーグ

前橋工（群馬）19―17 茨城選抜

埼玉選抜 16―14 茨城選抜

前橋工 18―15 埼玉選抜

【順位】①前橋工②埼玉選抜③茨城選抜

▽同女子リーグ

深谷女（埼玉）11―8 茨城選抜

深谷女 13―5 前橋市女（群馬）

茨城選抜 16―6 前橋市女

【順位】①深谷女②茨城選抜③前橋市女

一般は高知ク快勝

▼高知県春季選手権（5月・須崎工）

▽一般男子準決勝

弘岡農OB 7―0 土佐高OB B

高知ク 23―8 土佐高OB A

▽同決勝

高知ク 25（12―8 13―7）15 弘岡農OB B

▽高校男子準決勝

高知高専B 10―9 須崎工

追手前 24―8 土佐

▽同決勝

追手前 27（14―5 13―5）10 高知高専B

▽同女子予選リーグA組

追手前 5―4 高知西

高知西 10―2 伊野商

追手前 12―2 伊野商

▽B組

山田 12―2 佐川

佐川 5―3 高岡

山田 8―3 高岡

▽同決勝

追手前 8（3―0 5―1）1 山田

本田技研、大協石油破り優勝

▼三重県春季トーナメント（5月）

▽一般男子準々決勝

大協石油 17―15 三重教員ク

日本合成ゴム 16―12 鵜の森ク

本田技研 27―7 半田ク

高田ク 24―9 自衛隊久居

▽同準決勝

大協石油 11―10 日本合成ゴム

本田技研 25―5 高田ク

▽同決勝

本田技研 25（12―3 13―6）9 大協石油

▽高校男子準々決勝（3試合）

四日市工 8―7 四日市商

四日市 14―6 海星

津工 17―9 津

▽同準決勝

四日市工 12―3 四日市

津工 17―9 高田

▽同決勝

四日市工 13（5―4 5―6 2―0 1―2）12 津工

▽同女子1回戦（2試合）

暁 4―3 四日市

津女子 16―1 菰野

▽同準決勝

暁 7―0 四日市商

津女子 15―1 津

▽同決勝

津女子 5（4―0 1―2）2 暁

泉ケ丘の男女優勝成らず

▼第24回宮崎県民体育大会ハンドボール（6月・泉ケ丘高）

▽高校男子準々決勝

泉ケ丘 21―5 宮崎工

西都商 23―9 日南

都城工 23―5 日向工

日南工 48―5 宮崎電子

▽同準決勝

泉ケ丘 11―10 都城工

日南工 23―9 西都商

▽同決勝

日南工 15（10―7 5―6）13 泉ケ丘

▽同女子1回戦（2試合）

宮崎女 11―8 都城西

西都商 19―1 延岡

▽同準決勝

泉ケ丘 5―4 宮崎女

小林商 20―4 西都商

▽同決勝

泉ケ丘 9（4―3 5―3）6 小林商

▽一般男子（都市対抗）決勝

宮崎市 20（7―8 13―8）16 都城市

教員は沖工が3連勝
琉球大A、一般で優勝

▼第3回全沖縄一般・教員選手権（5月・沖縄高）

▽教員の部一回戦（1試合）

那覇商教員 12―9 首里高教員

▽同準決勝

沖縄工教員 26―16 小禄高教員

沖縄高教員 11―8 那覇商教員

▽同決勝

沖縄工教員 11（4―1 7―3）4 沖縄高教員

▽一般の部準決勝

琉球大A 28―11 那覇高OB

興南イーグルス 29―9 琉球大B

▽同決勝

琉球大A 17（12―7 5―7）14 興南イーグルス

小金、佐原に逆転勝ち

▼第23回千葉県高校総体ハンドボール（5月・千葉東高校）

▽男子準々決勝

小金 16―11 木更津

清水 19―7 鶴舞雪解沢

八千代 17―11 国府台

佐原 22―5 鶴舞

▽同準決勝

小金 20―4 清水

佐原 17―13 八千代

▽同決勝

小金 10（0―3 10―2）5 佐原

▽女子リーグA組

昭和学院 10―5 八千代

佐原女 8―2 八千代

昭和学院 4―3 佐原女

▽同B組

木更津 6―3 鶴舞

鶴舞 4―0 和洋附国府台

木更津 不戦勝 和洋附国府台

粉河、御坊商工優勝分く

▼和歌山県高校総体ハンドボール（5月・打田町）

▽男子2回戦（2試合）

県和歌山南 14―6 桐蔭

市和歌山商 25―4 粉河

▽同第2次敗者復活戦

御坊商工 20―4 粉河

新宮 11―4 桐蔭

▽同準決勝

県和歌山商 13―7 御坊商工

市和歌山商 17―4 新宮

▽同3位決定戦

御坊商工 15―13 新宮

▽同決勝

県和歌山商 20（9―3 11―6）9 市和歌山商

▽女子決勝リーグ

御坊商工 7―5 貴和

粉河 5―1 県和歌山商

粉河 8―2 貴和

御坊商工 11―3 県和歌山商

貴和 10―4 県和歌山商

粉河 5（分）5 御坊商工

【順位】①粉河・御坊商工得失点差も同じなため優勝預り③貴和④県和歌山商

岩手大、岩手教員に善戦

▼岩手県民総合体育大会ハンドボール（6月・県営球技場）

▽一般男子準決勝

岩手教員ク 22―19 全岩手

岩手大 31―9 花巻ク

▽同決勝

岩手教員ク 20（11―8 9―10）18 岩手大

岩手教員クは2連勝5度目の優勝

大経大2連勝

▼第4回大阪学生選手権（6月・大阪大）

▽決勝

大阪経大 22（9―9 13―6）15 関西大

大阪経大の優勝は2年連続

男子は金沢市役所

▼石川県春季選手権（5月・羽咋）

▽一般男子準々決勝
県工ク 24−11 金沢大
金沢工大 不戦勝 金商ク
金沢市役所 26−8 津田駒工業
金市工OB 19−15 羽咋ク

▽同準決勝
金沢工大 13−9 県工ク
金沢市役所 23−11 金市工OB

▽同決勝
金沢市役所 10（6−7 4−2）9 金沢工大

▽一般女子決勝（1試合）
小松市女OG 19（11−2 8−1）3 羽咋OG

自衛隊勝田が優勝

▼茨城県一般・クラブ春季選手権（5月・茨城大体育館）＝男子のみ

▽準々決勝
自衛隊勝田 10−7 茨城大
新治ク 16−6 百里基地
日立製作所 14−8 千代田OB
原子力研究所A 23−11 茨城ク

▽準決勝
自衛隊勝田 11−4 新治ク
原子力研究所A 15−4 日立製作所

▽決勝
自衛隊勝田 21（8−4 13−1）5 原子力研究所A

広商大、接戦で鋼管降す

▼広島県一般男子春季選手権（5月・呉商）

▽準々決勝
日新製鋼呉 14−10 広商大OB
広島商大 13−9 三原高OB
修道ク 14−13 三菱レ大竹
日本鋼管 27−19 広島工大

▽準決勝
広島商大 16−15 日新製鋼呉
日本鋼管 22−16 修道ク

▽決勝
広島商大 17（8−8 9−8）16 日本鋼管福山

男女とも国学院栃木

▼栃木県高校大会（5月・足利商）

▽男子準々決勝
国学院栃木 18−14 宇都宮工
馬頭 18−8 石橋
足利 13−4 足利工
足利高 13−7 鳥山

▽同準決勝
国学院栃木 14−4 馬頭
足利商 4−3 足利

▽同決勝
国学院栃木 17（12−4 5−7）11 足利商

▽女子予選リーグA組
栃木女 12−3 馬頭
足利商 13−8 馬頭
栃木女 10−8 足利商

▽同B組
国学院栃木 12−2 足利女
小山城南 8−7 足利女
国学院栃木 15−4 小山城南

▽同決勝
国学院栃木 不戦勝 栃木女

青森では三本木、青森西

▼第20回青森県春季高校大会（5月・三本木高）

▽男子予選リーグA組
鰺ケ沢 15−13 青森
三本木 18−8 鰺ケ沢
三本木 16−10 青森

▽同B組
青森商 13−12 七戸
青森商 12−10 柏木農
柏木農 11−10 七戸

▽同5・6位決定戦
七戸 14−11 青森

▽同決勝リーグ
三本木 15−9 柏木農
青森商 12−9 鰺ケ沢
鰺ケ沢 14−10 柏木農
三本木 7−6 青森商
三本木−鰺ケ沢、青森商−柏木農戦は予選リーグ記録を適用
【順位】①三本木②青森商③鰺ケ沢④柏木農⑤七戸⑥青森

▽女子決勝リーグ（2回戦制）
青森西 13−2 三本木
七戸 8−6 三本木
青森西 10−0 七戸
三本木 13−3 七戸
青森西 19−6 三本木
青森西 13−4 七戸
【順位】①青森西②三本木③七戸

中学大会記録

▼茨城県春季選手権（5月・茨大）

▽男子準決勝
結城 7−5 岩瀬西
玉造 11−6 千代田
新治 14−7 麻生
東 9−8 北浦

▽同準決勝
玉造 10−1 結城
東 12−10 新治

▽同決勝
東 7（6−3 1−3）6 玉造

▽女子準々決勝
結城 14−11 麻生一
玉造 7−5 波崎一
岩瀬西 12−4 牛堀
水海道西 15−2 麻生

▽同準決勝
結城 15−10 玉造
水海道西 10−3 岩瀬西

▽同決勝
水海道西 11（6−6 5−1）7 結城

青森協会理事長に岡本氏

青森協会はこのほど新役員を次のように決めた。

▽会長 鹿内一胤▽副会長 川島卯太郎、太田尚充、成田実明▽理事長 岡本和男（青森西高教）▽常任理事 長内和男、盛田秀三、高橋利孝、塚原景暉、碇谷寿明、松田弘、成田栄一、柳谷万、林田信之、牧野正蔵、相馬謙三

林達夫氏、愛知協会長に

愛知協会ではこのほど新会長に林達夫氏（大同製鋼副社長）を迎えた。東海協会長も同氏となる。

編集後記

▽……大阪協会から機関誌第7号が届けられた。これまでは新聞（タブロイド）形式だったが今年から雑誌スタイル。機関誌というより「イヤー・ブック」的なものである。京都協会や熊本協会もかって出していたように記憶するが、こうしたモノの編集は大変だ。

▽……日本協会でも古い記録が霧散して困っている。なんとか収集し一冊にまとめたいと思うがはかどらない。先輩の記録を書き留めておくことは競技の世界で絶対に必要な姿勢である。レコードを競うスポーツではないのだから、という理由は当らない。全国高体連や全日本実連はしっかりしており見習いたいと思う。地方協会では編集子の知る限りでは茨城協会が抜群だ。

▽……共同通信社の御厚意で反則過剰への警鐘原稿を掲載させていただいた（21頁・球界パトロール）。「反則の多いハンドボールをオリンピックに入れるのはどうかという声がヨーロッパの一部にある」（本誌75号座談会、竹野奉昭氏の発言）というが、日本の球界も反省しなければなるまい。全自衛隊大会を口火に高校、教職員、総合と全日本選手権がつづく。「フェアプレー」の精神を貫ぬいてもらいたいものだ。（S）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第七十七号
昭和四十年六月七（日）第三種郵便物認可
昭和四十五年六月二十五日印刷、昭和四十五年七月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
（　）渋谷区神南一ー一ー一 大代表(467)三一一一 振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価 百五十円（年間購読11回・千二百円）